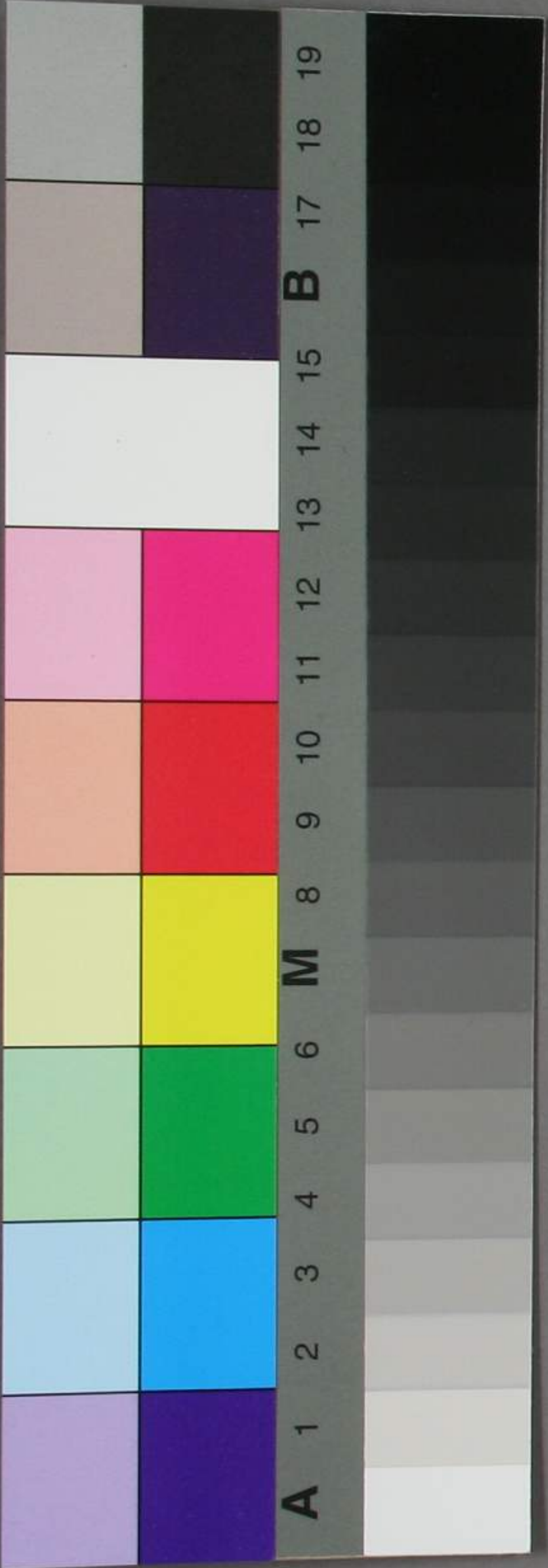


石立
稽古

置碁自在

四目之部下
四

79
3704
4



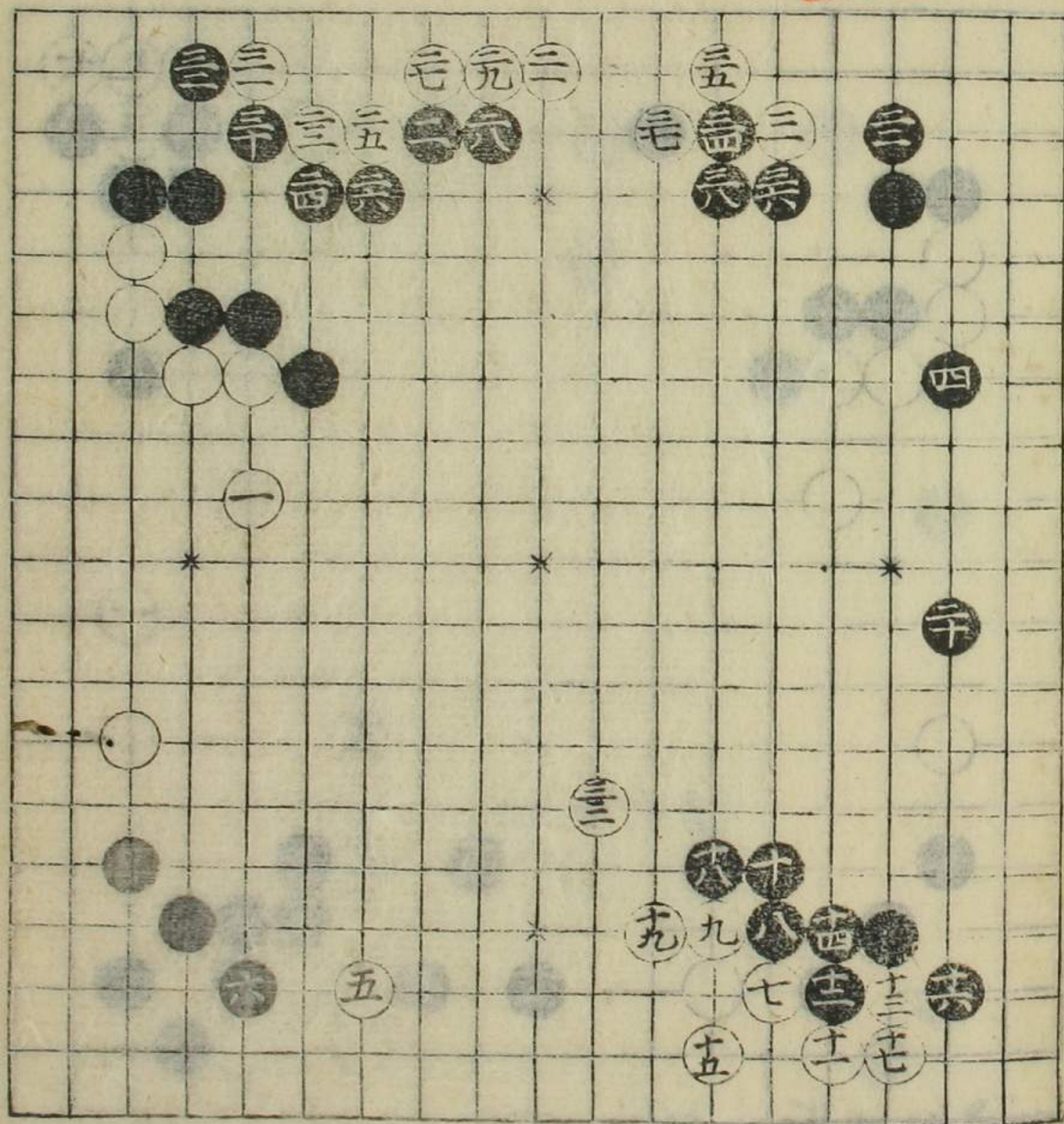
門 7 9
 3704
 4

置碁自在



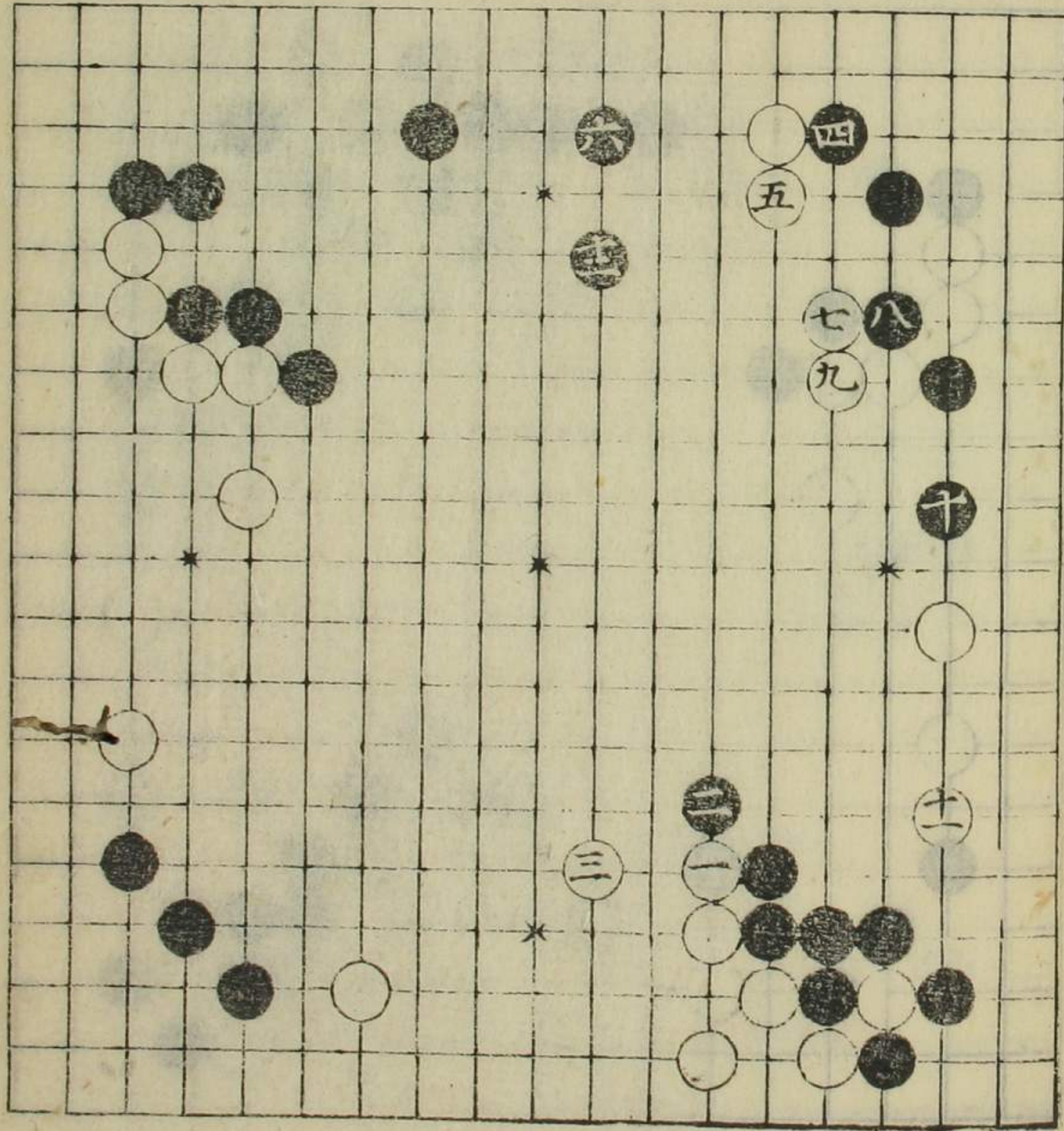
上部の本碁白十五
 此より始る
 二の取白をきゆ
 三五と打ぬ此あり
 てハ黒はくた者
 三四者

四目置之部

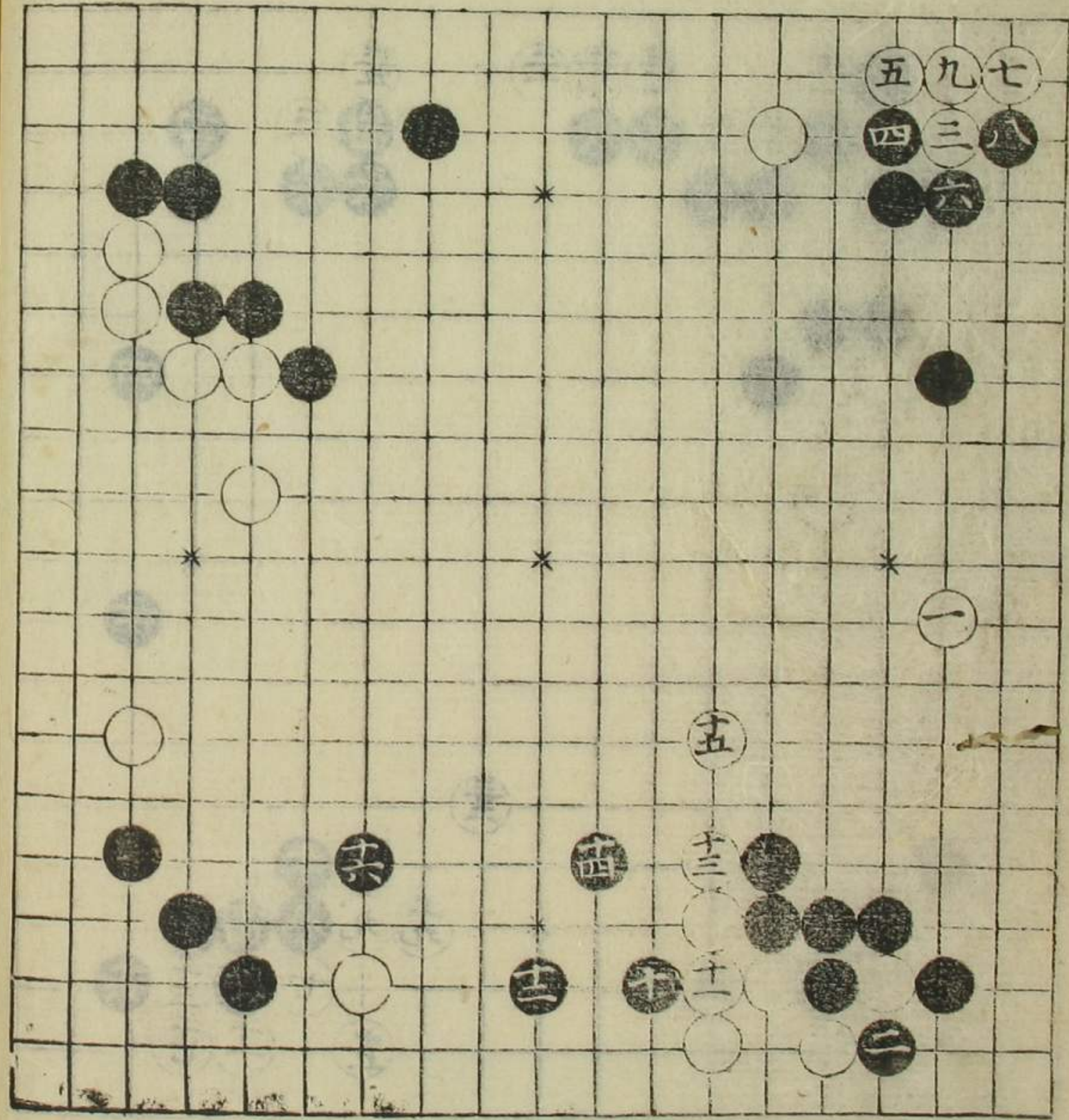


二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五

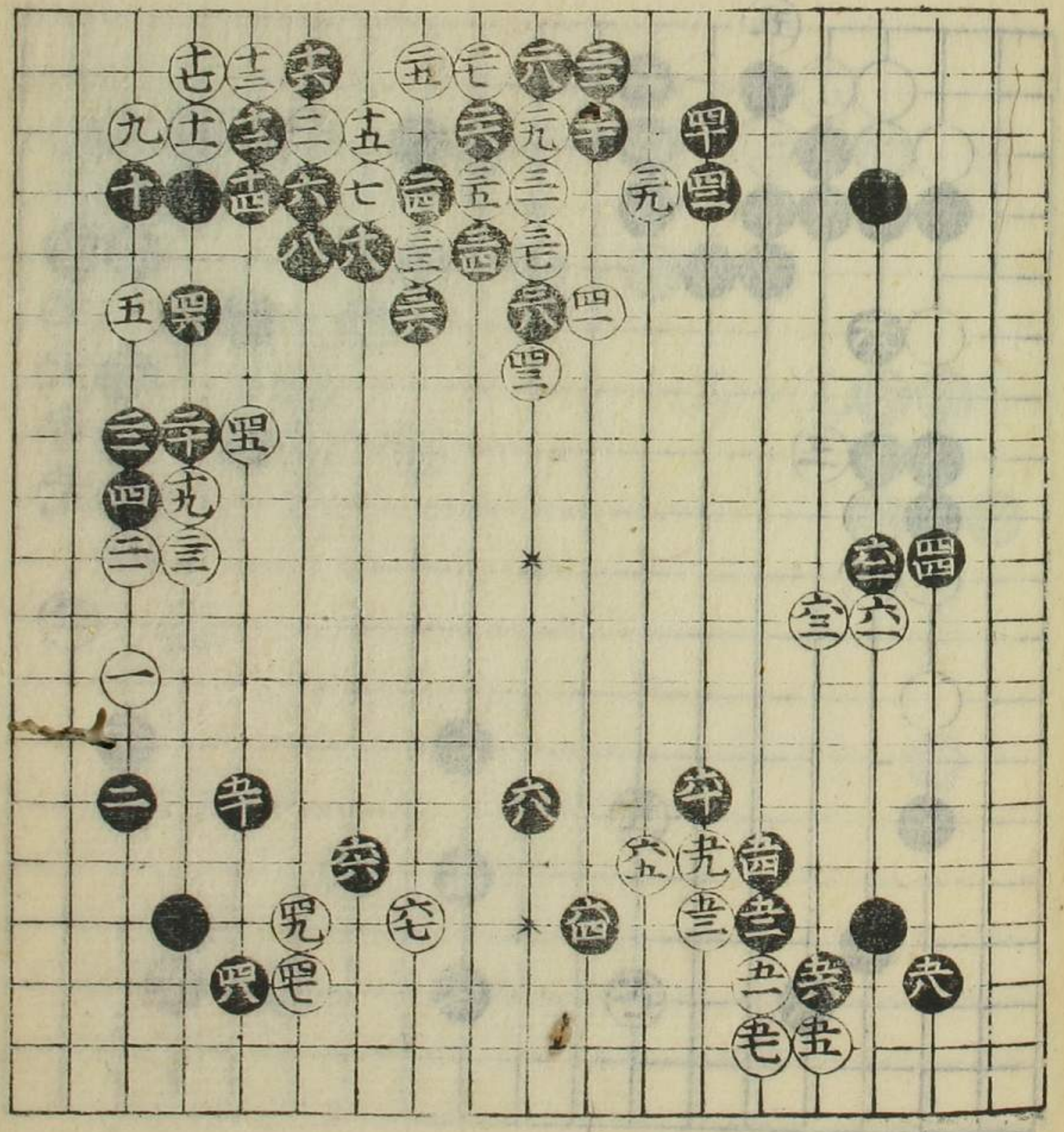
此盤白十七石より
移り
此盤も黒打は



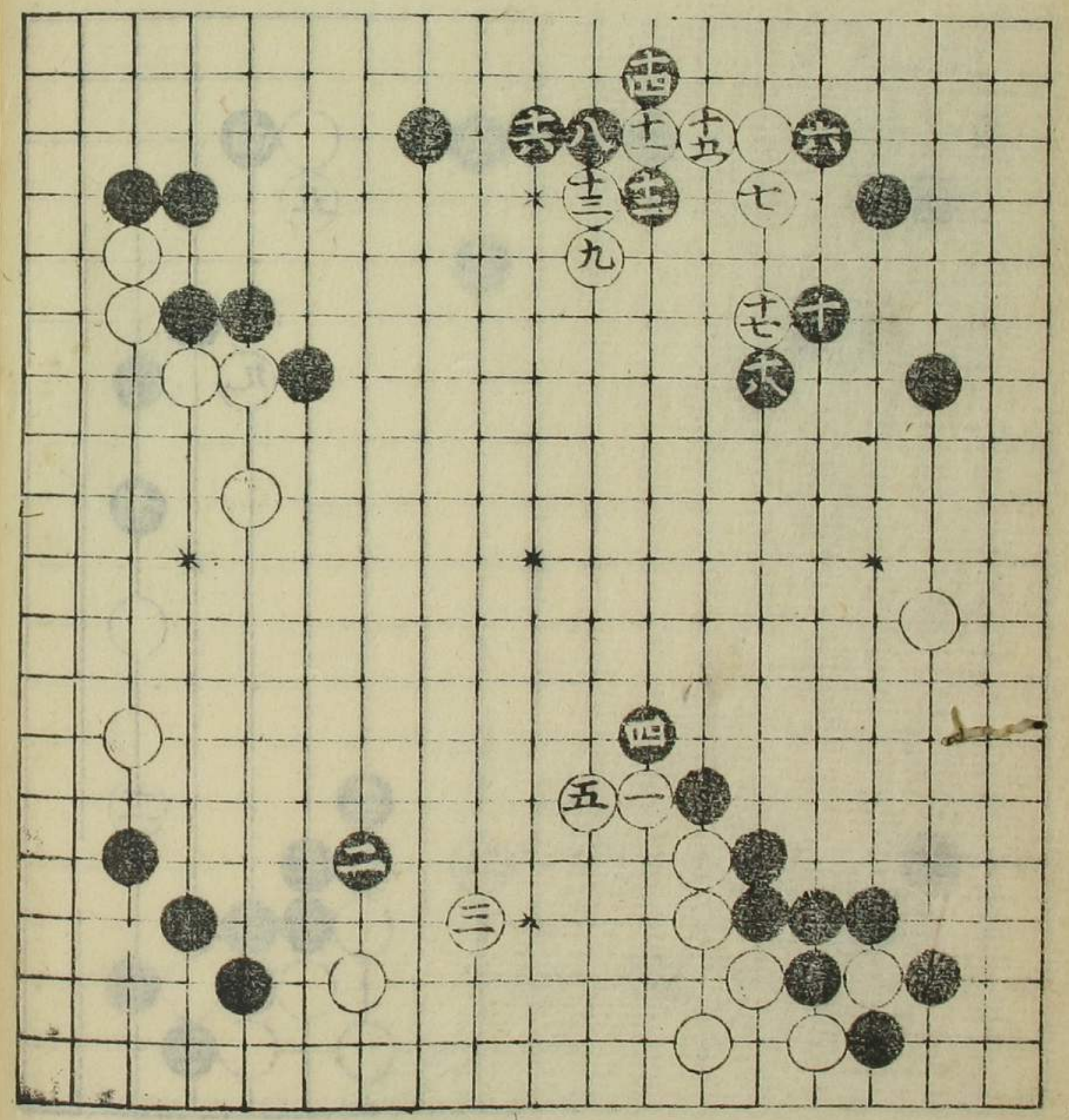
此盤白十七石より
移り
此盤も黒打は



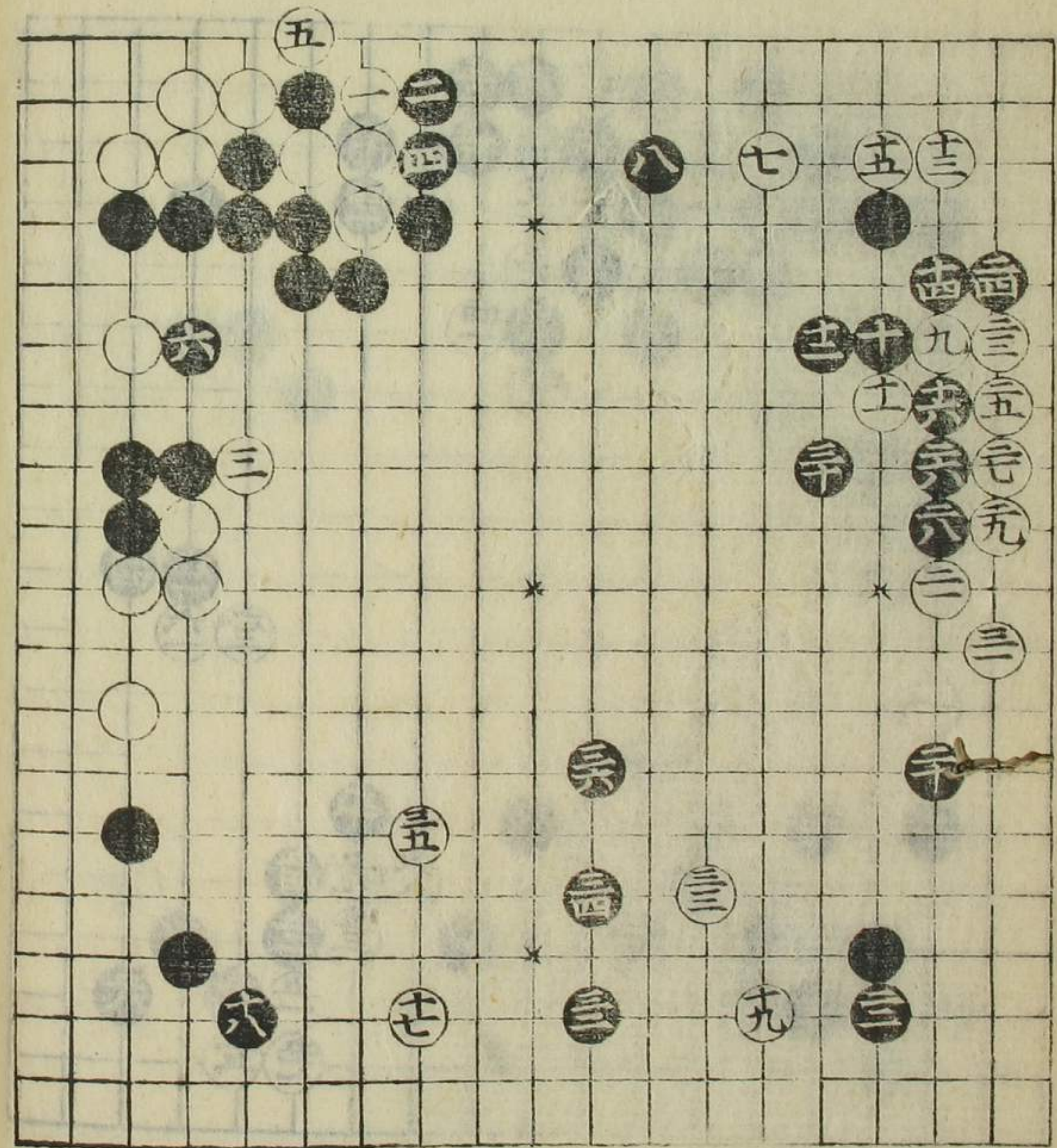
黒六四と打たるゝ
五筋ありまゝす人
形は後如新あり付と
角より打能は
好



花星白三比より
移る
白下打るとして打
かこりやるとして打
ん持るゝとて打
考へ打言くとて打

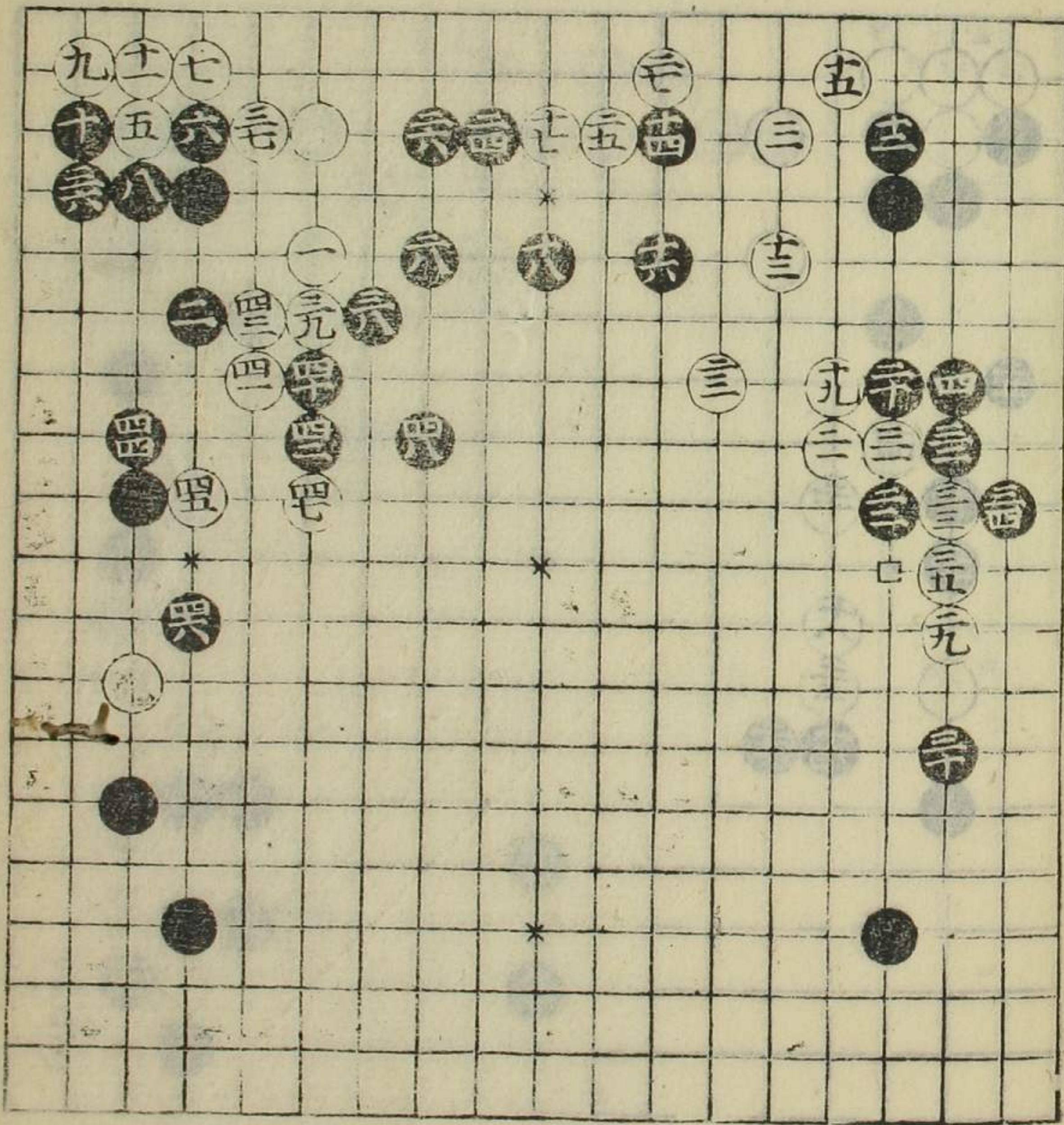


元星白二五此より
 移り
 ぬき移りては
 三六の中を元星
 白へさすすすす
 白

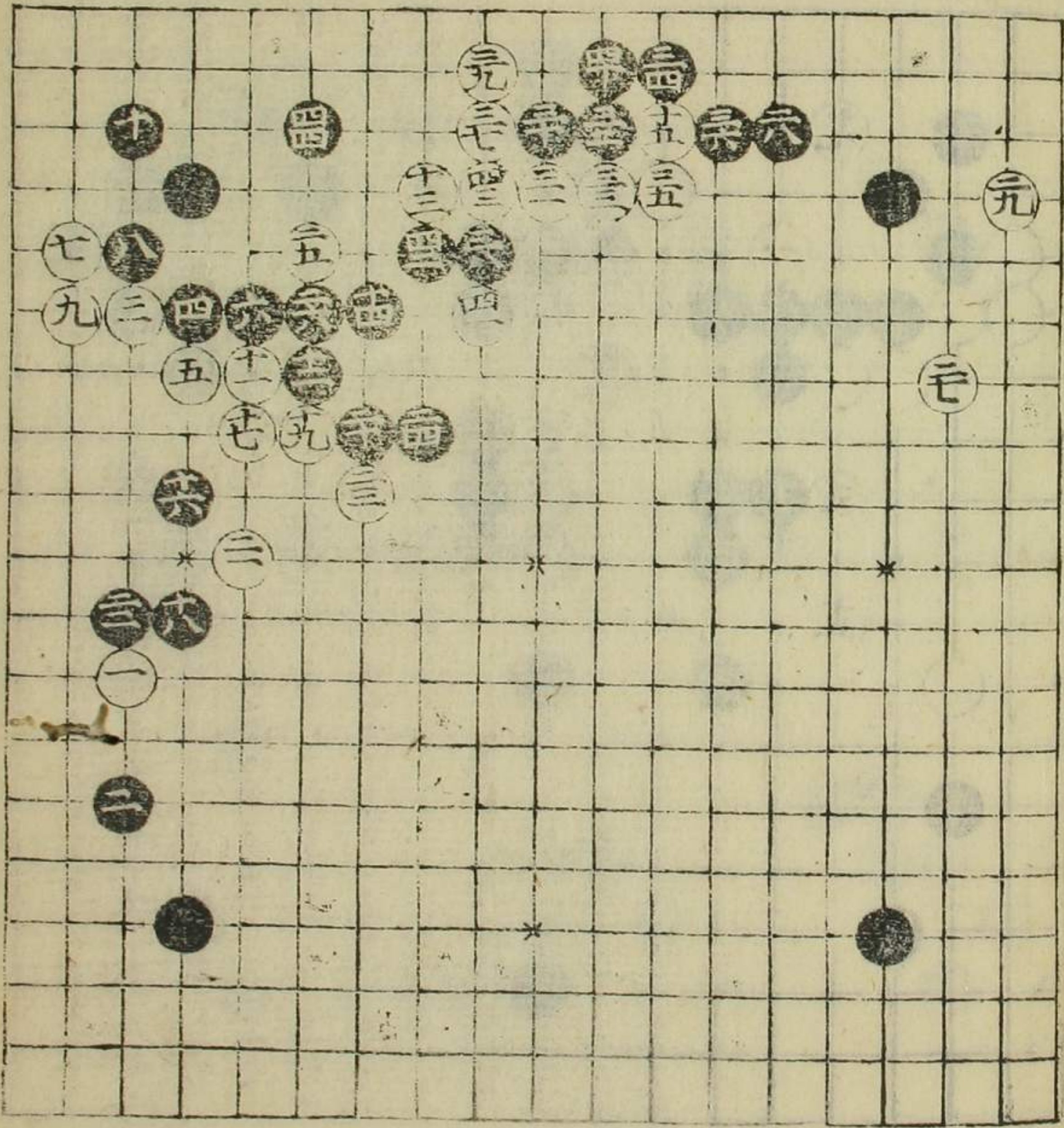


元星白五の
 移り

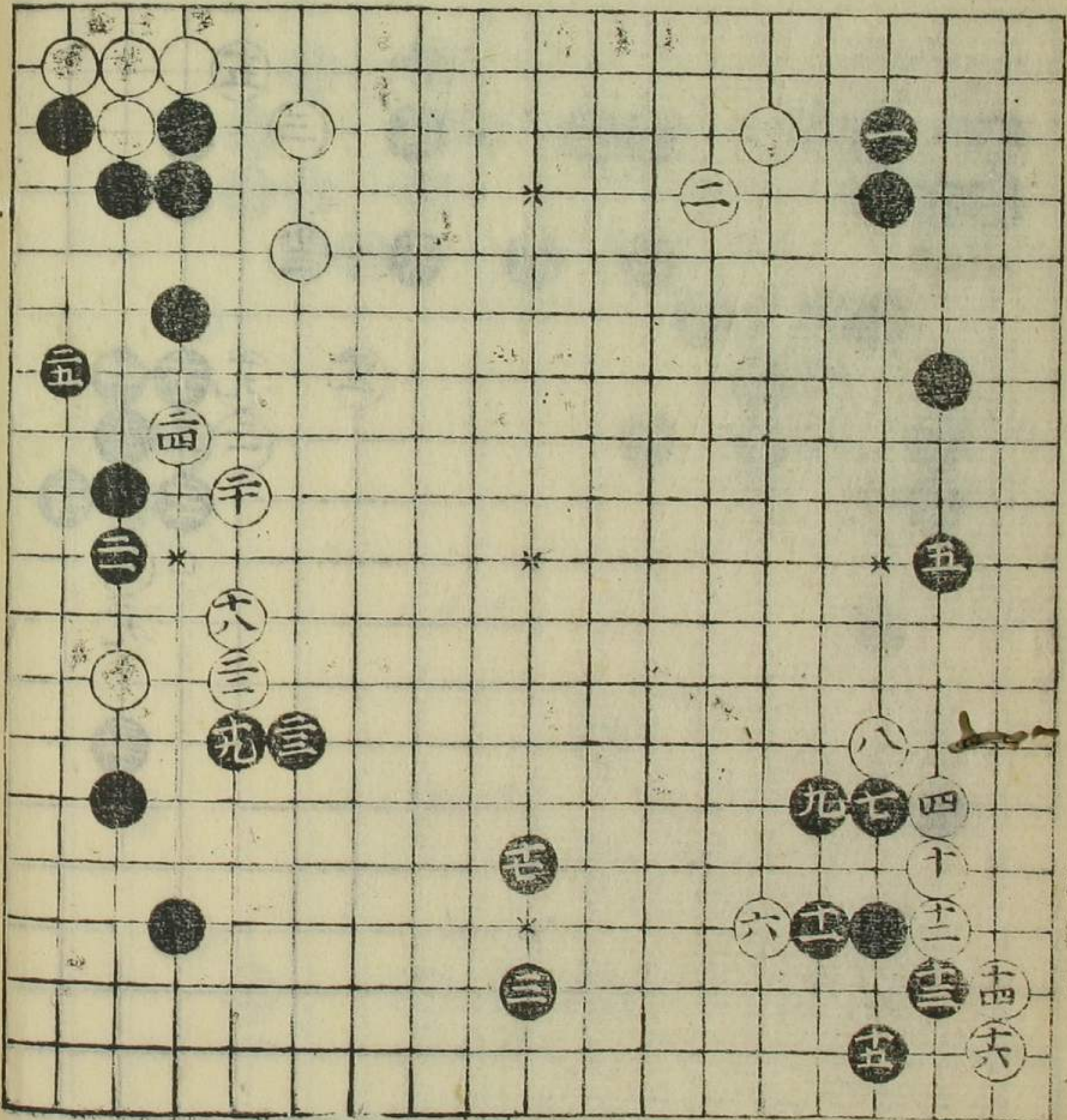
黒三四の口へ
 もろは五三六は
 此星はに
 元星はに
 黒山はに
 元星はに
 元星はに
 元星はに
 元星はに



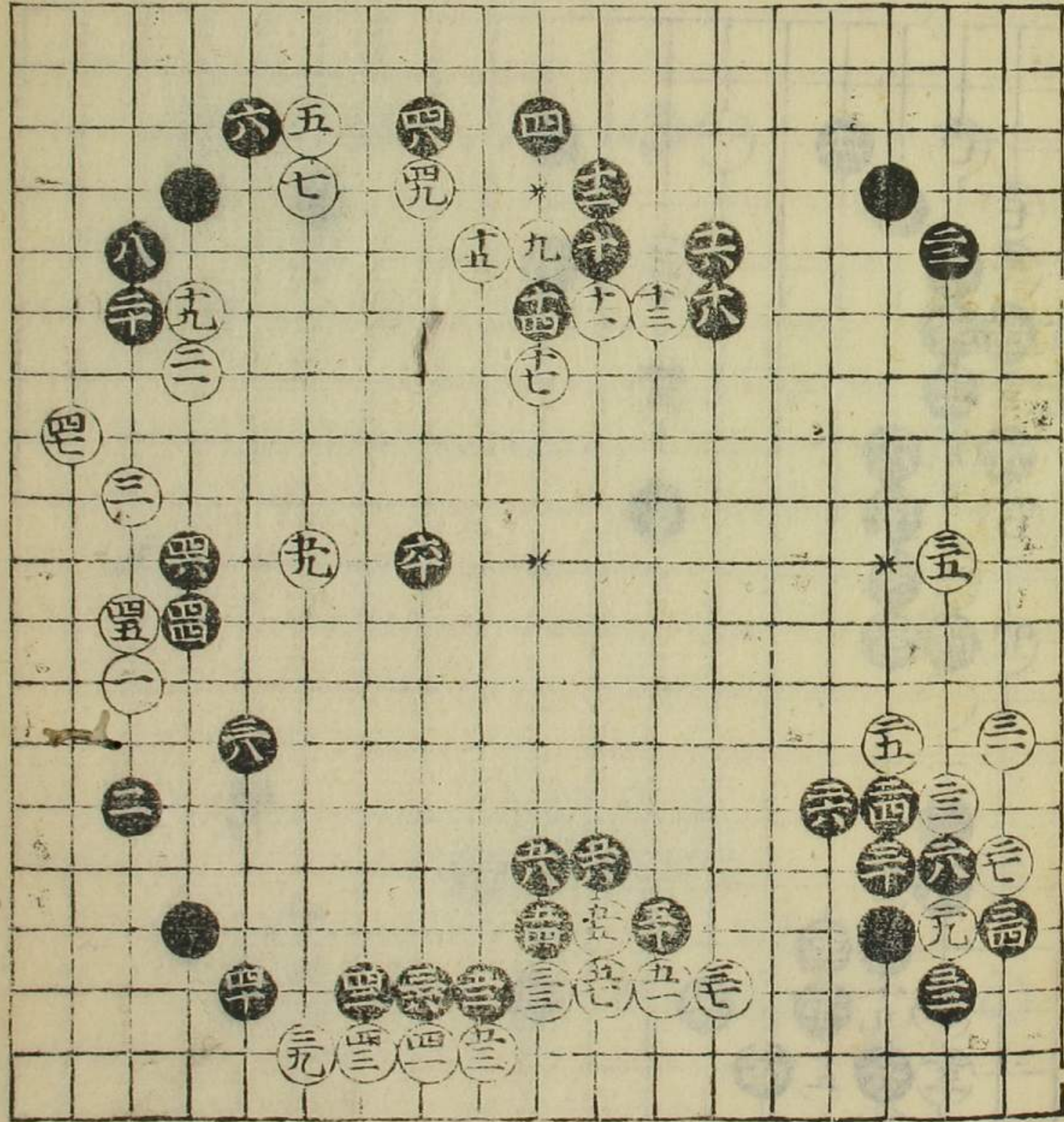
十六の石を記し
右切の石を忘る
らす



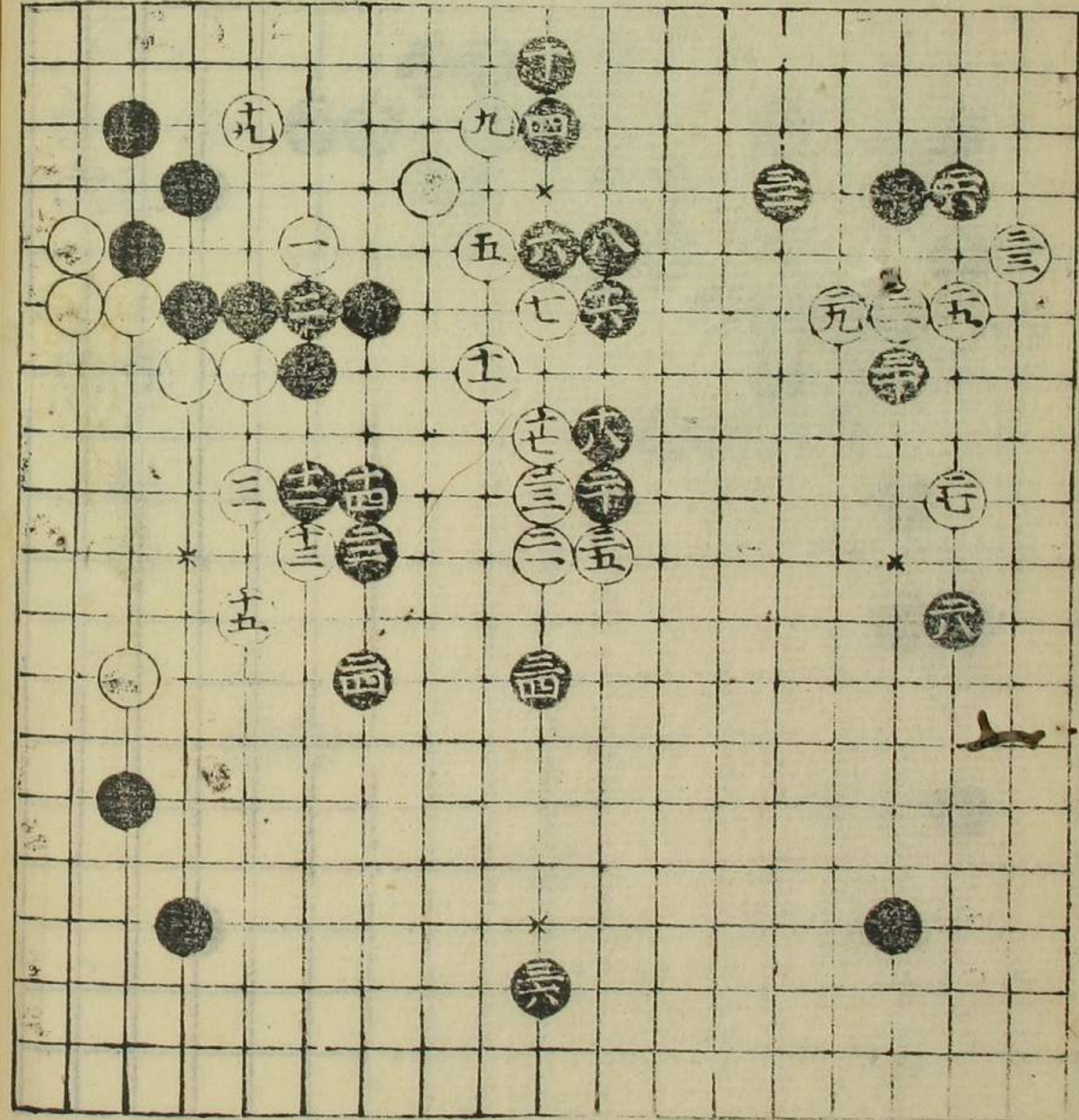
若白十三は
此石を黒位
す



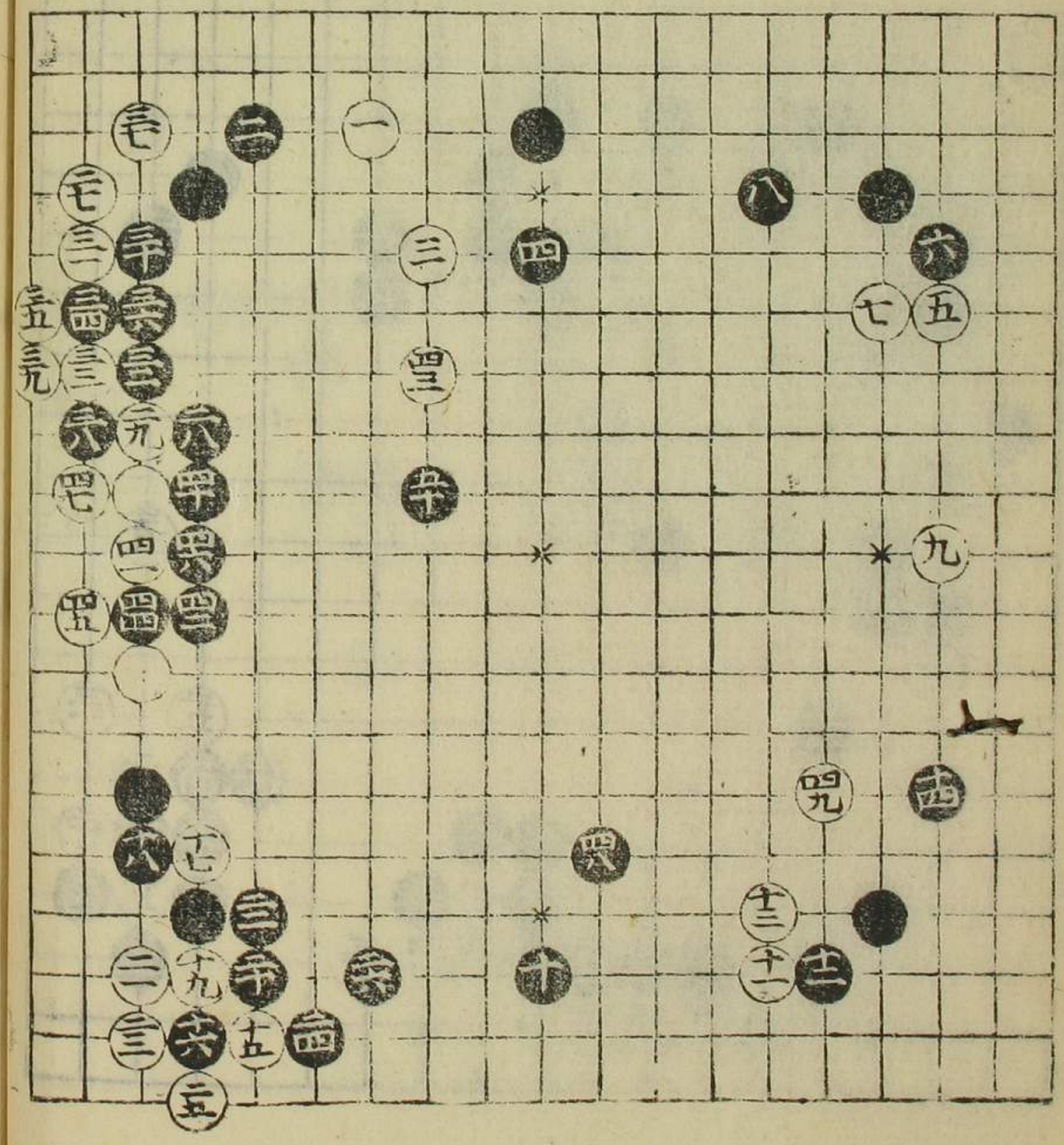
十四の切捨並ぬ此打手筋
よくきんぬし五十と
打とらる打も脚をこ
あつ考之打手



前並早五此より
移る
此石互太位中
手筋打能も法

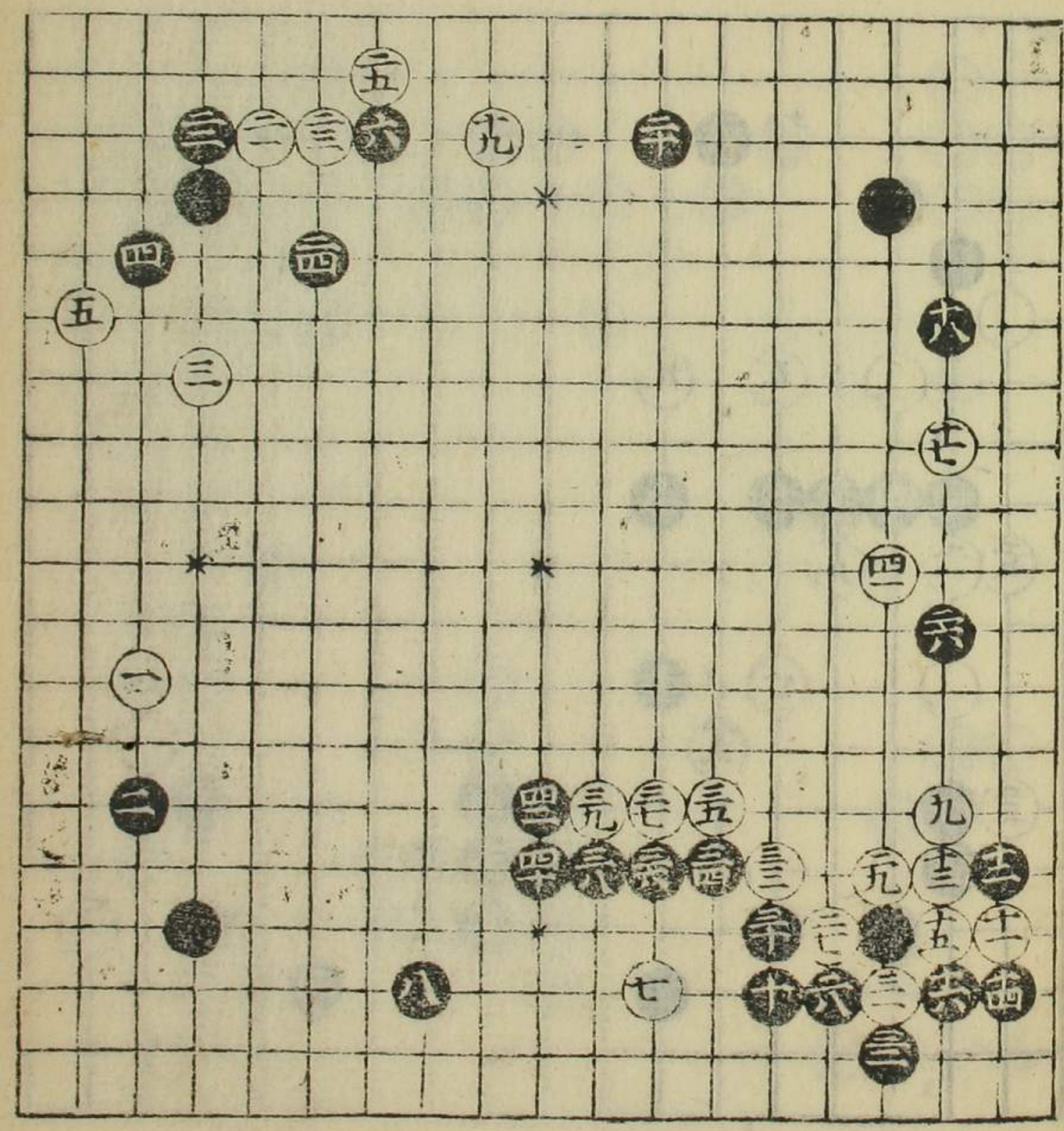


最上白五のよう
 勢
 十と少の差あり
 大位中て白は之
 左の子にあり

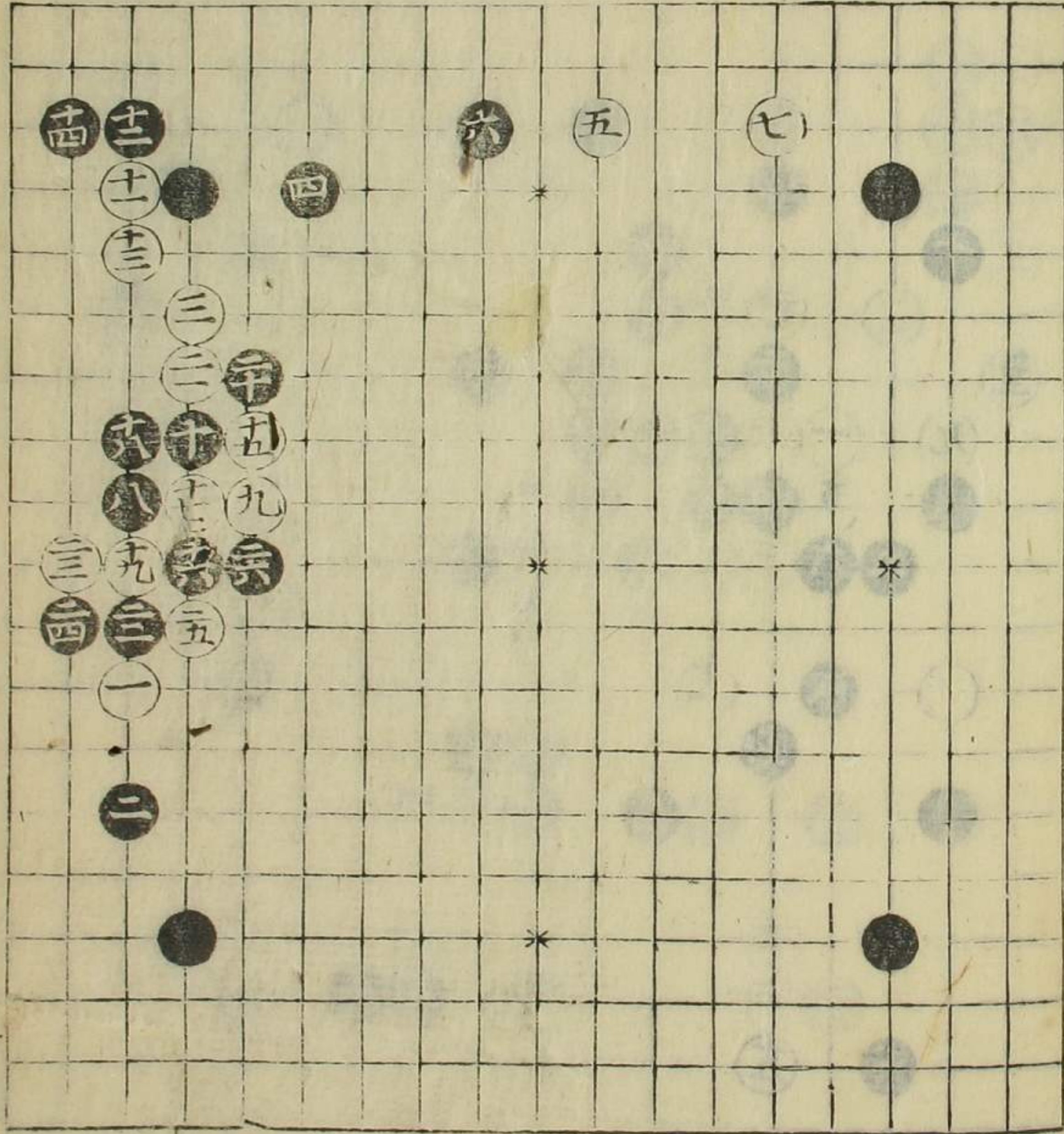


黒二八の差は七は白
 を隔てた勢あり
 四二の押が為すは
 筋をわすれし

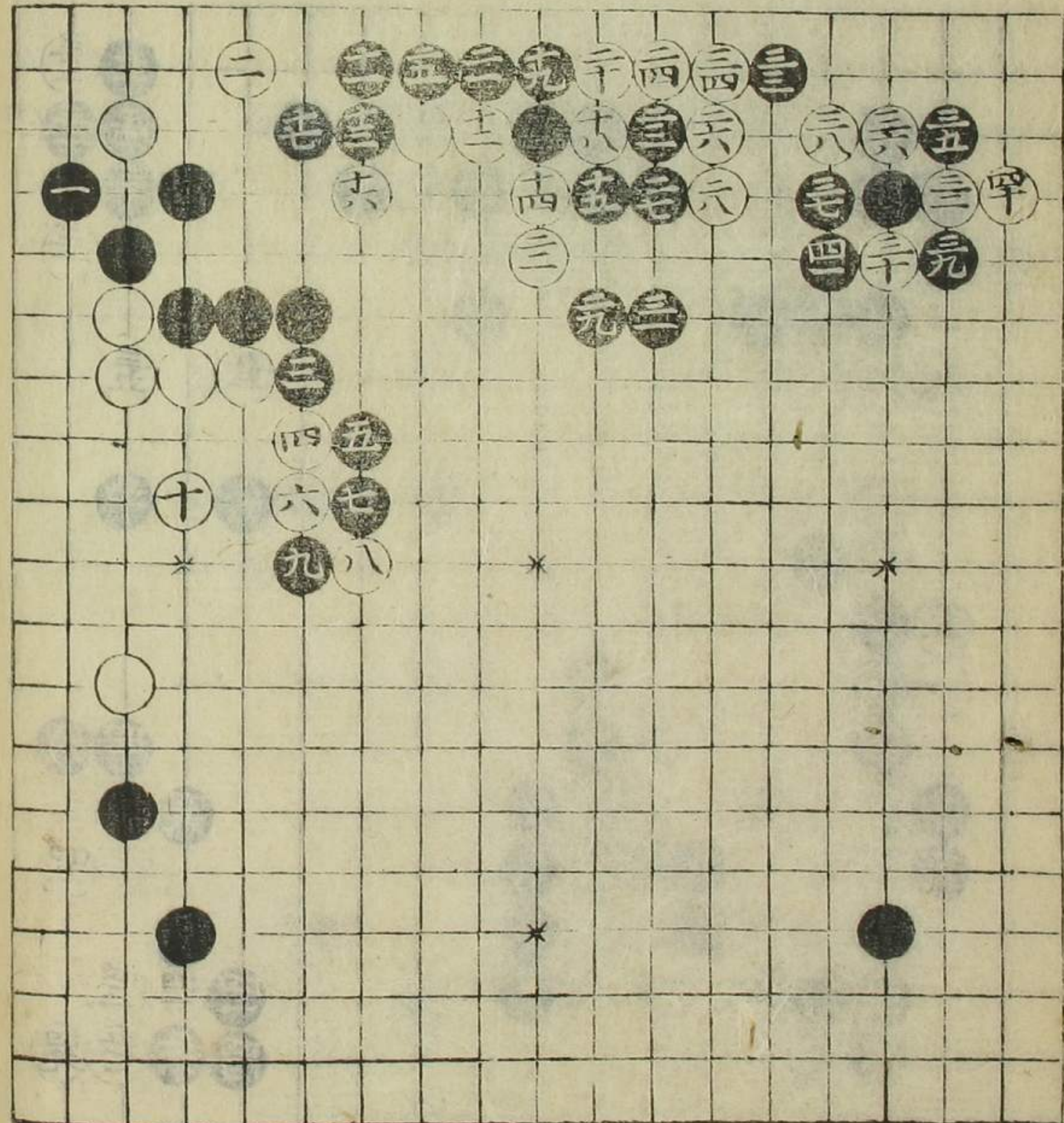
四目置之部



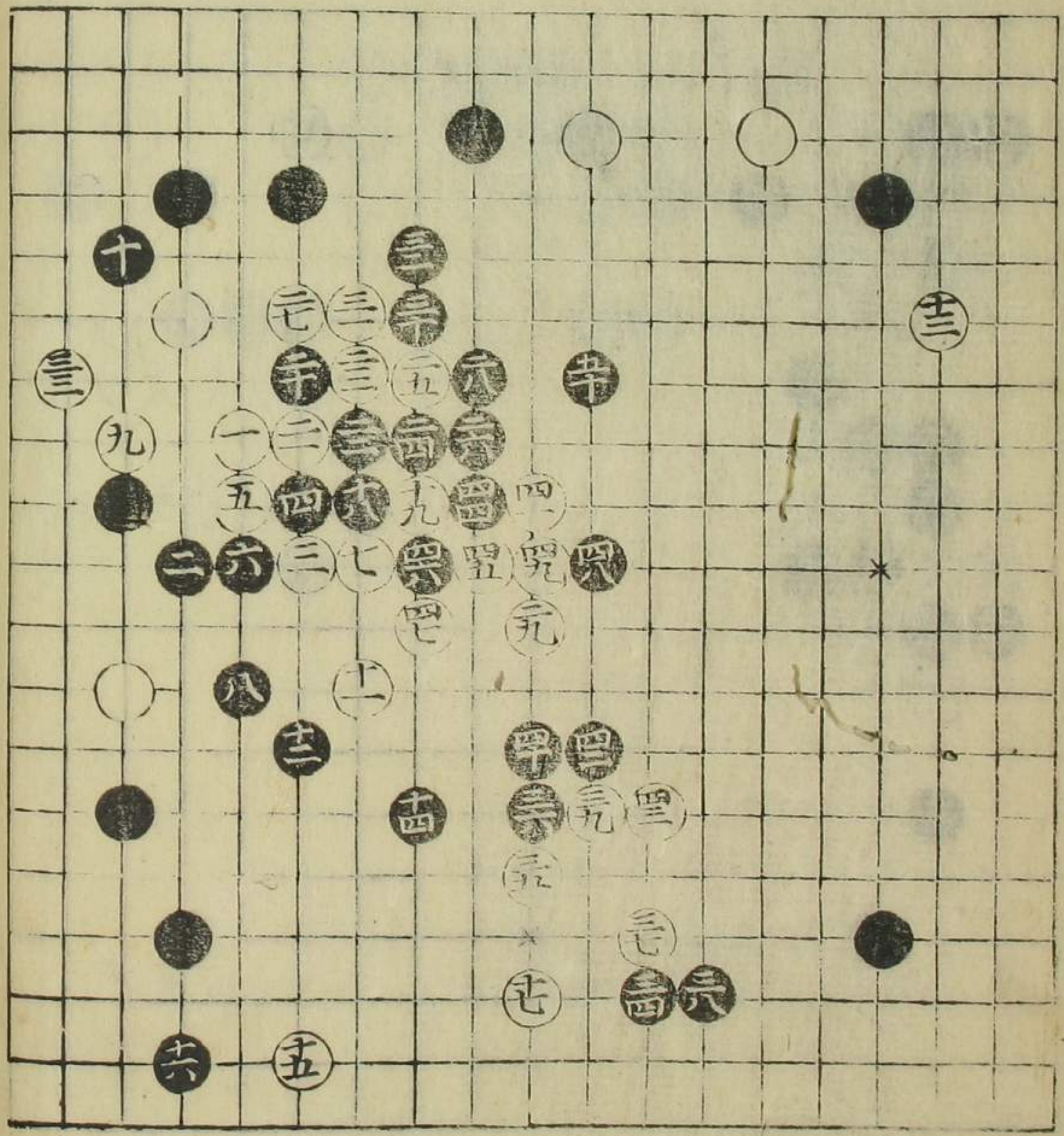
白十九切を以て三
二四と先之換て打心不
ありて白打振外し後
有れも記之



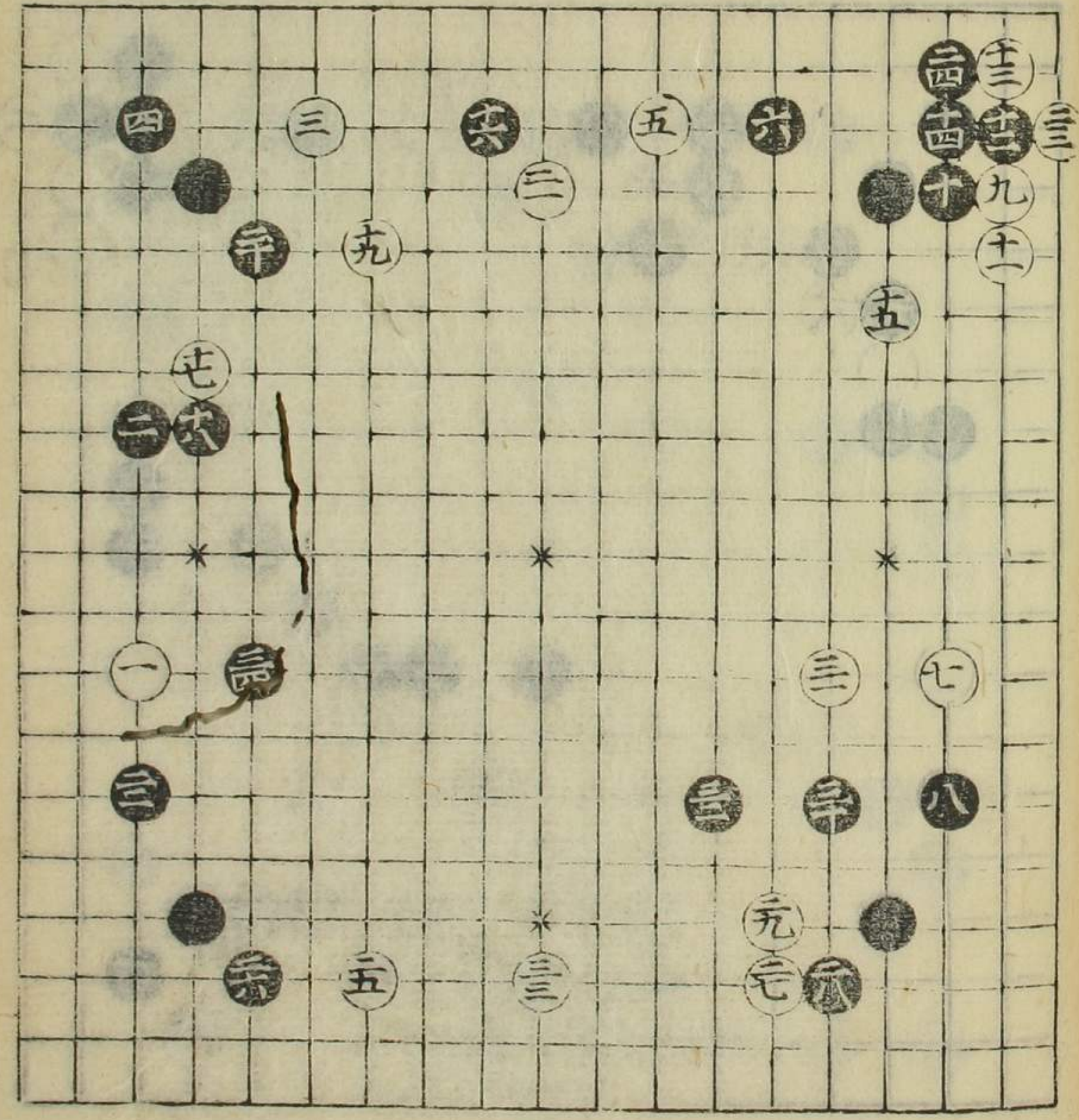
石置黒十四はより
砂
子振より石に依り掛
付是二三とて打て
るく五のゆきよ
三三は白打振外し後
ありて黒打外し後
ありて
二三の石



若墨白九は子あり
 勢
 十八と中此石を逐く隔
 ておとるはあまのり
 ちづりへくはあまのり
 自ら又あまのりふあまのり
 なるる考す



十八の押あはる三四
 二十

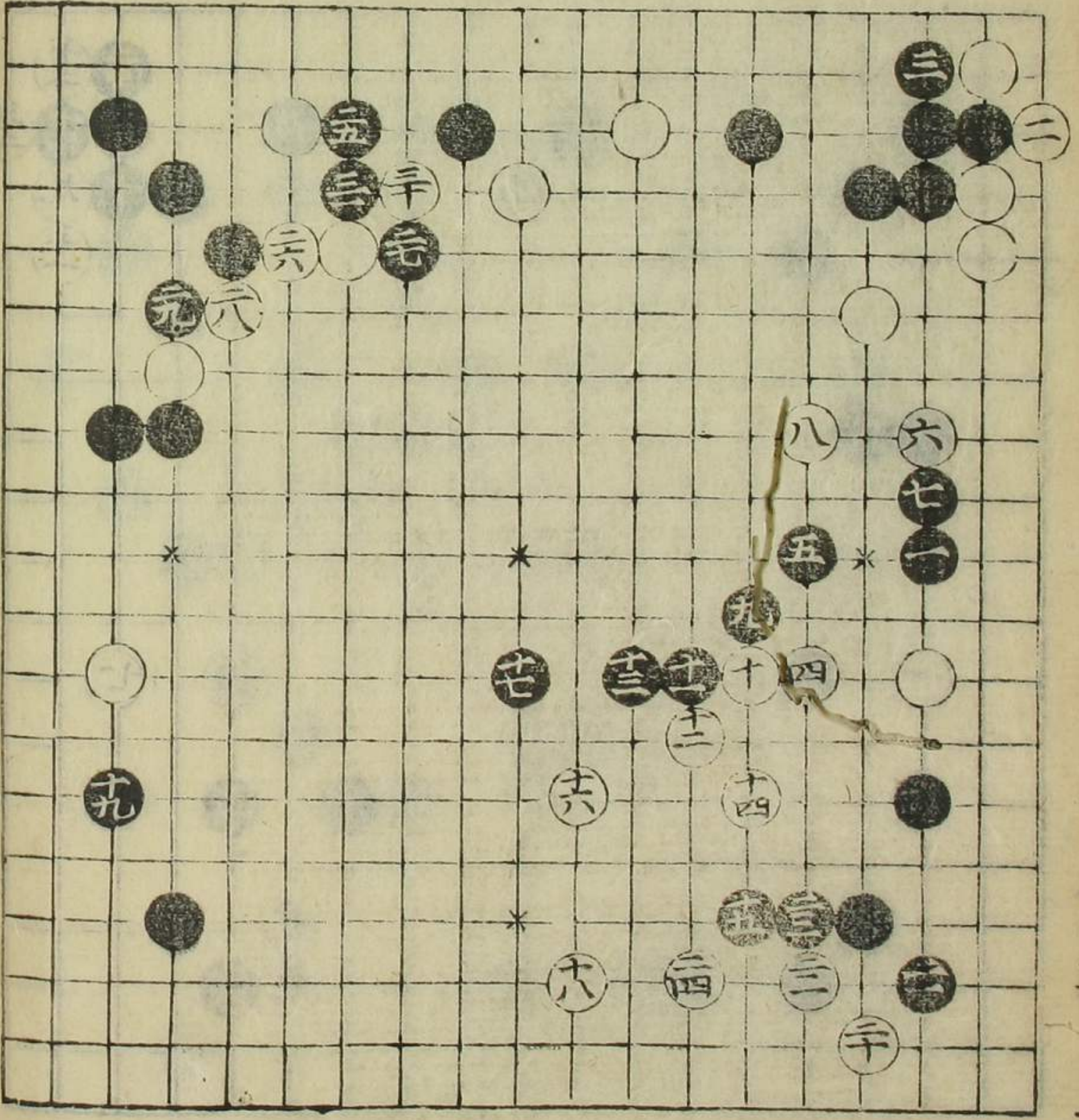


四目置之部

三十五

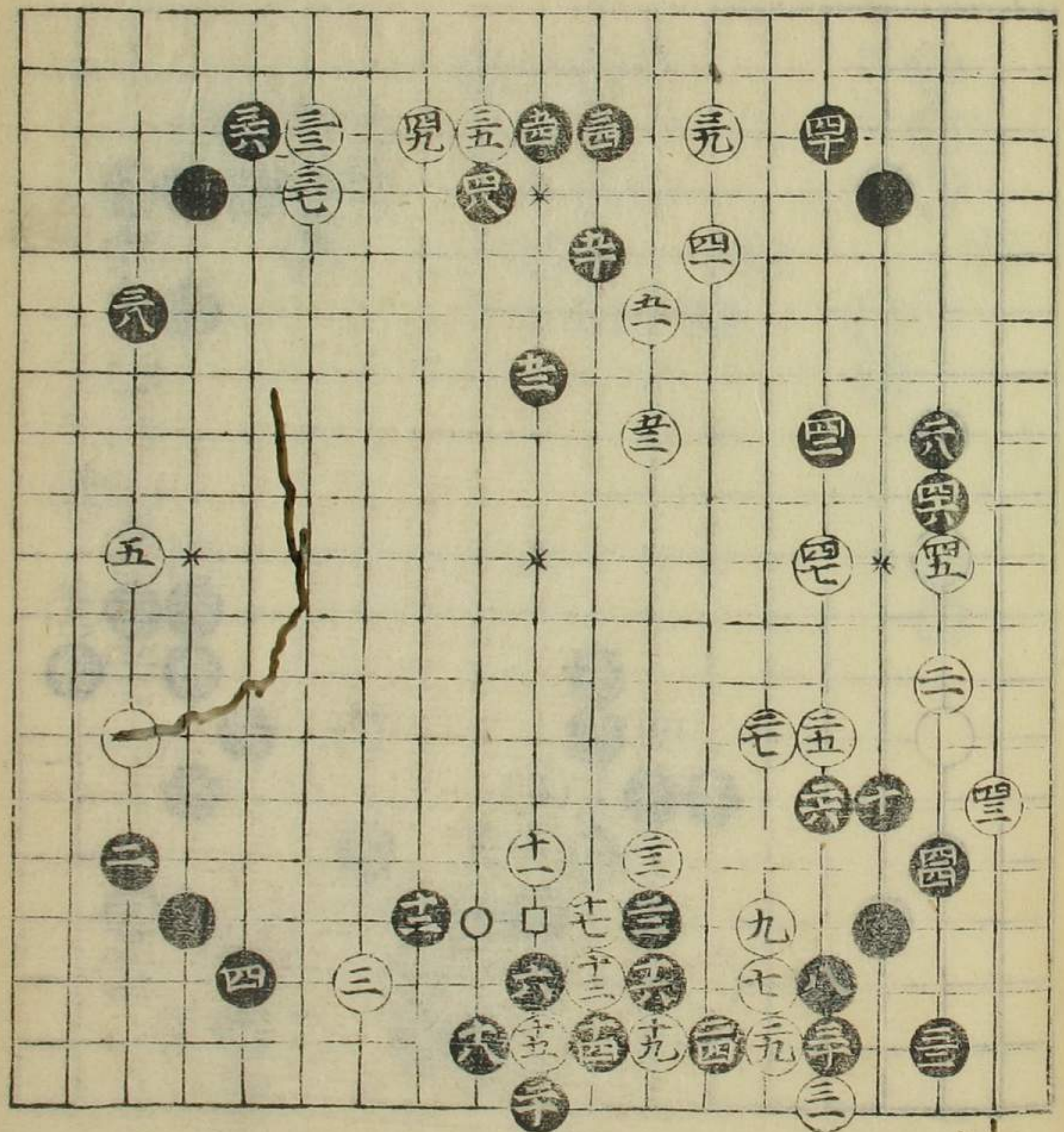
三十四

本圖三二のよき
 珍
 ぬき清くおぼやかし
 二五けり
 ありんか



三十五

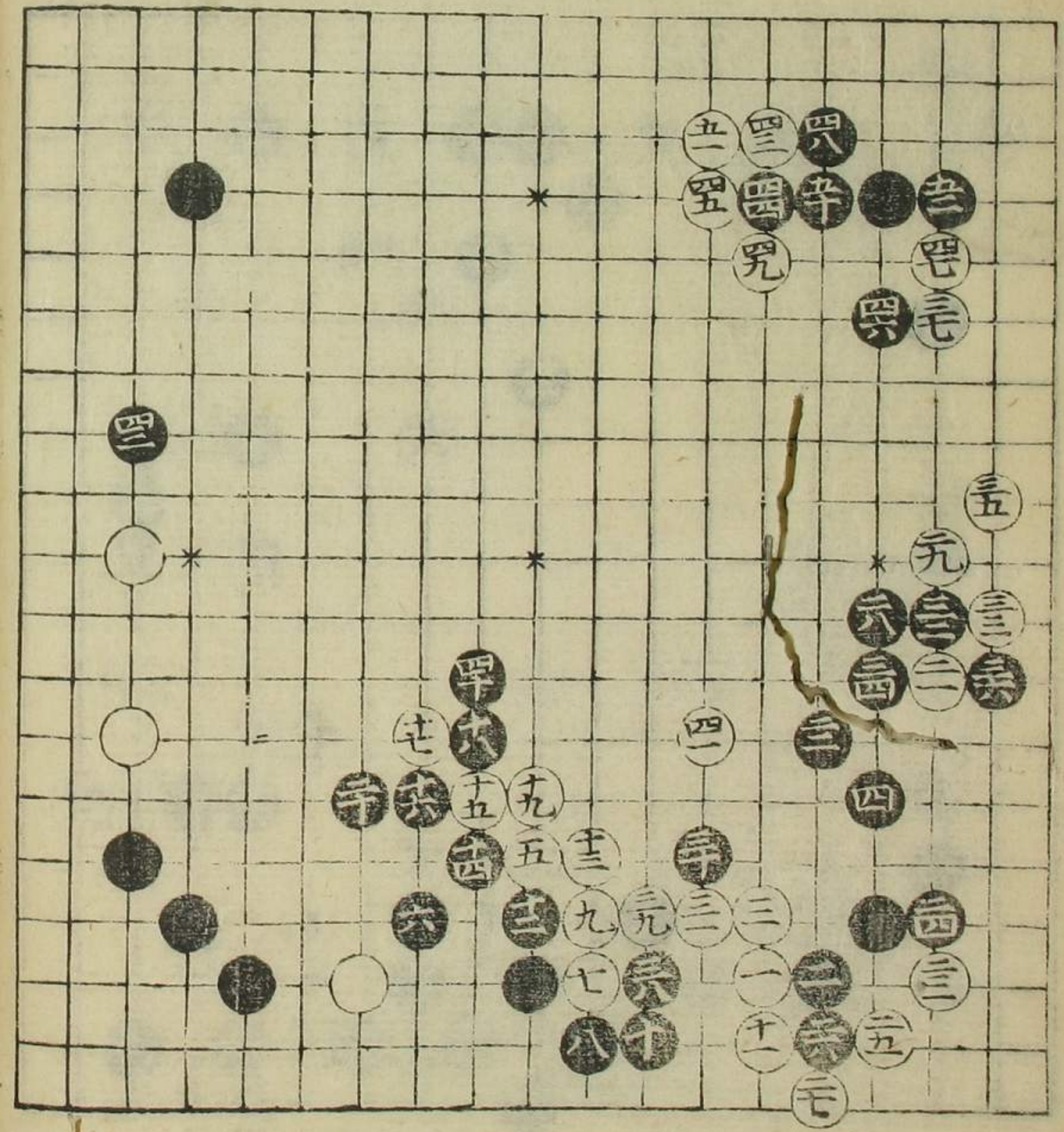
卓此附口
 吉○
 よ
 も
 ち
 ち



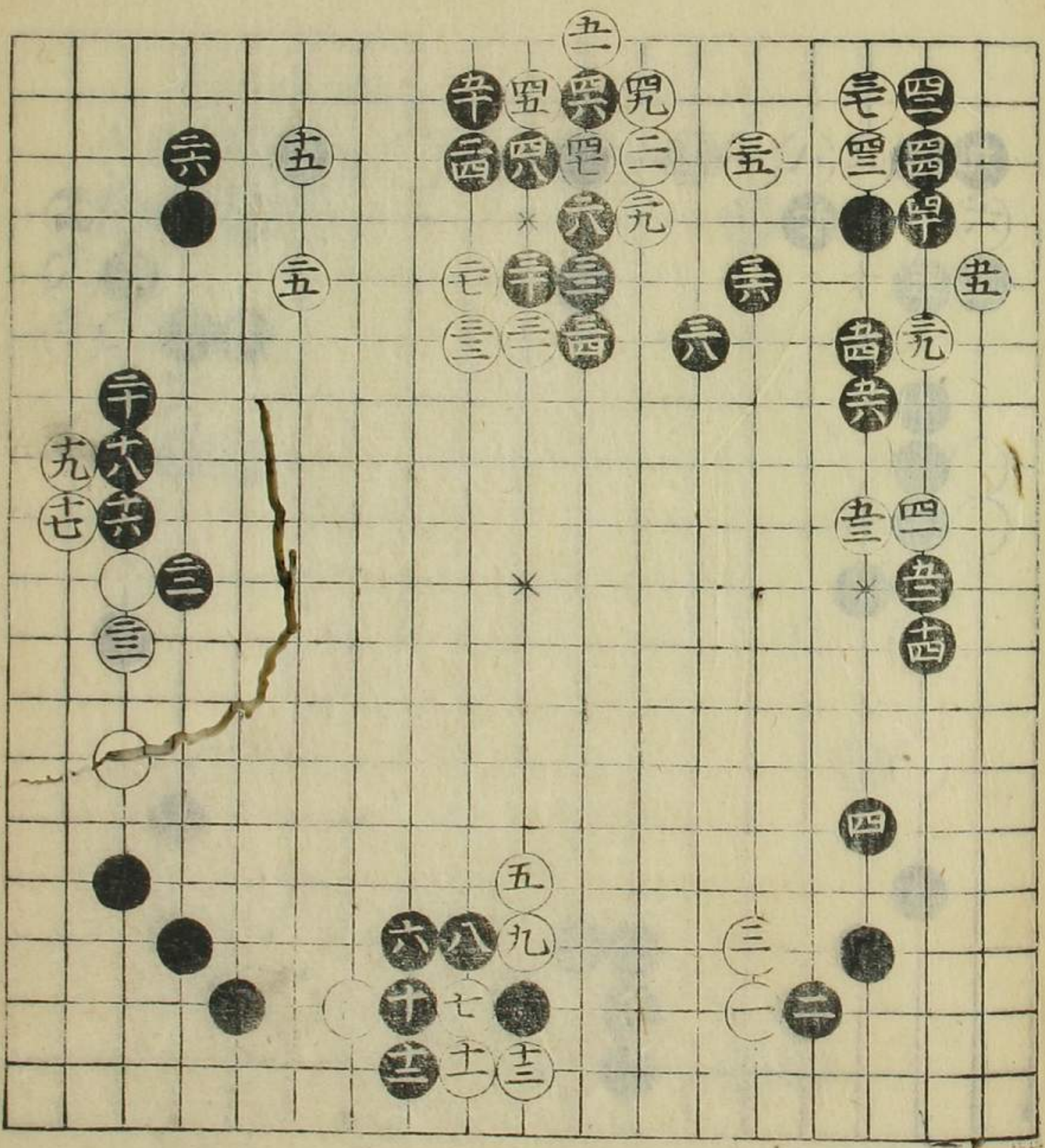
四目置之部

三十六

花墨白十五以より
 勢
 九と白引ハ黒十二
 打ハ勢者

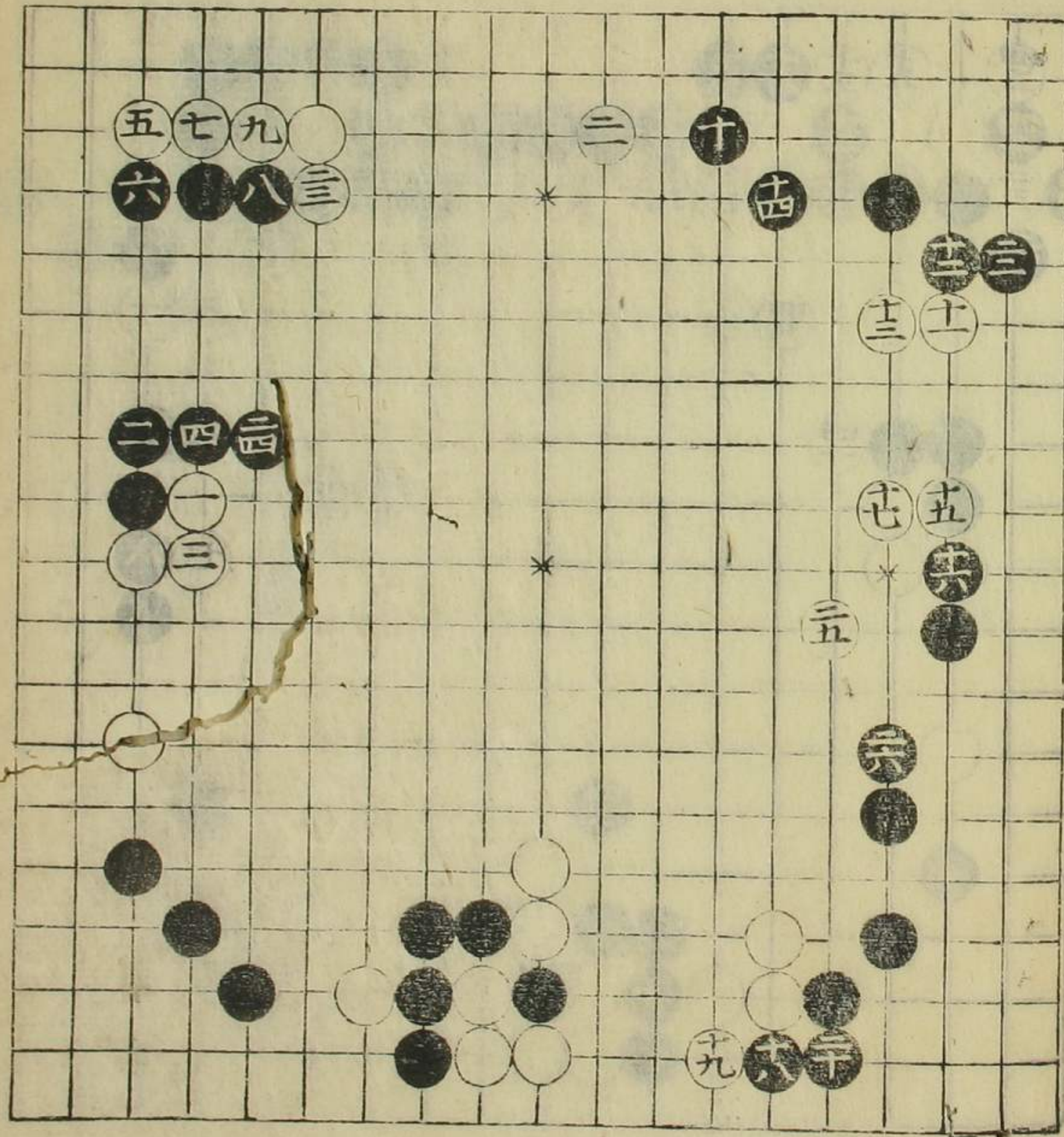


花墨白七以より
 勢
 種々振替りしもの
 をあへんをり考
 へんゆなり

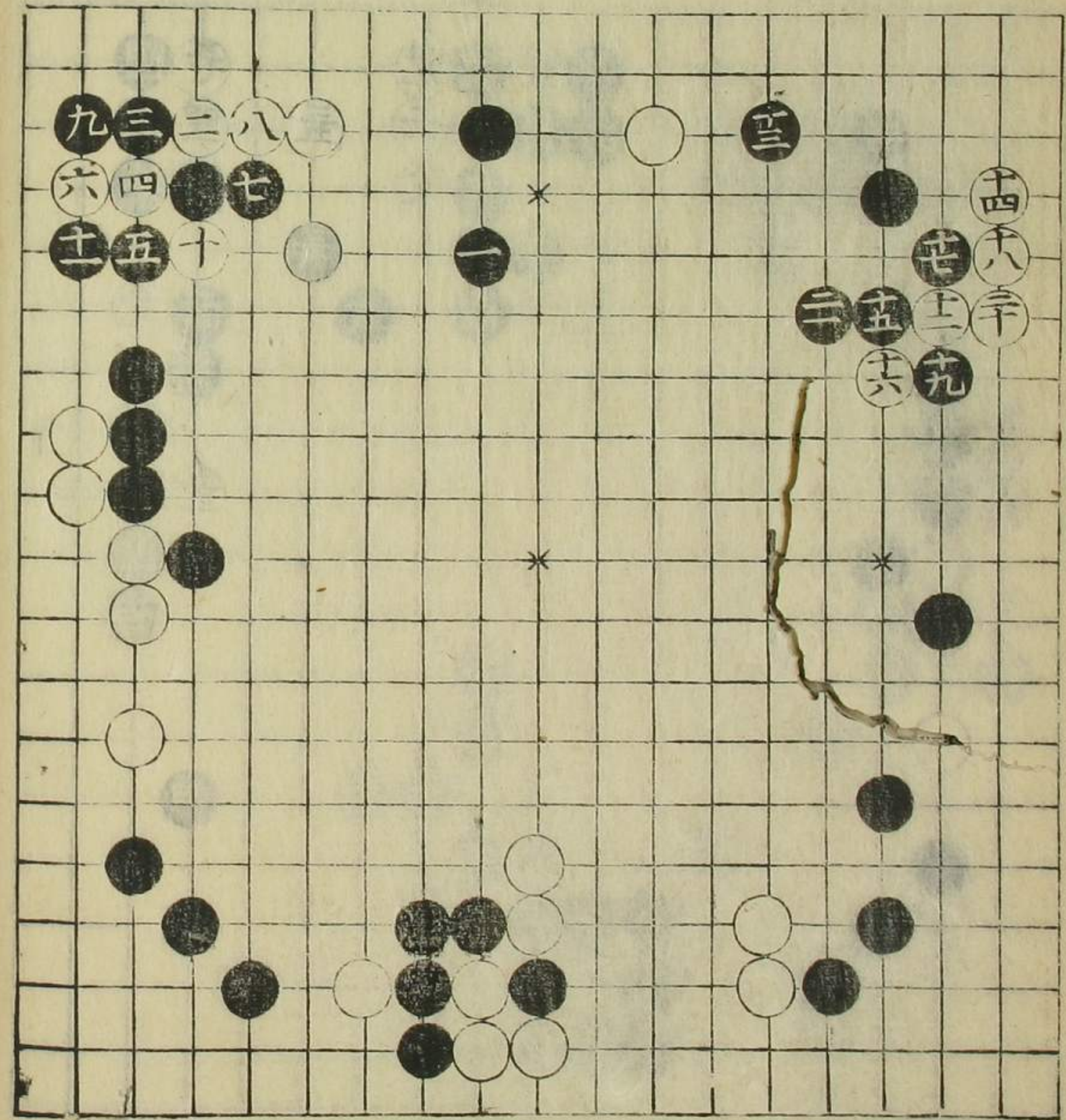


四目置之部

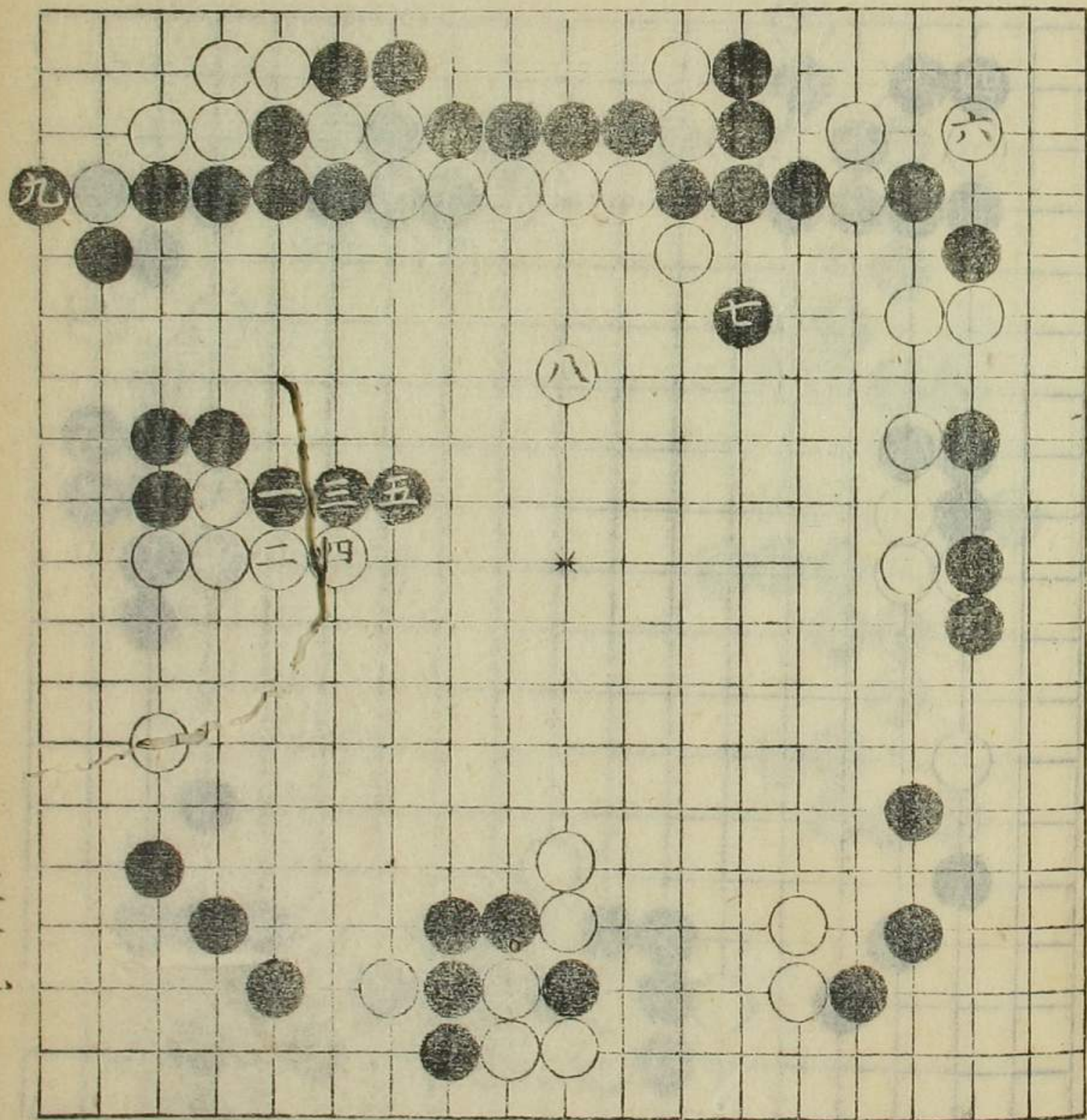
本星あり二番目は白
十七のともり勢あり
此石互黒大よ右



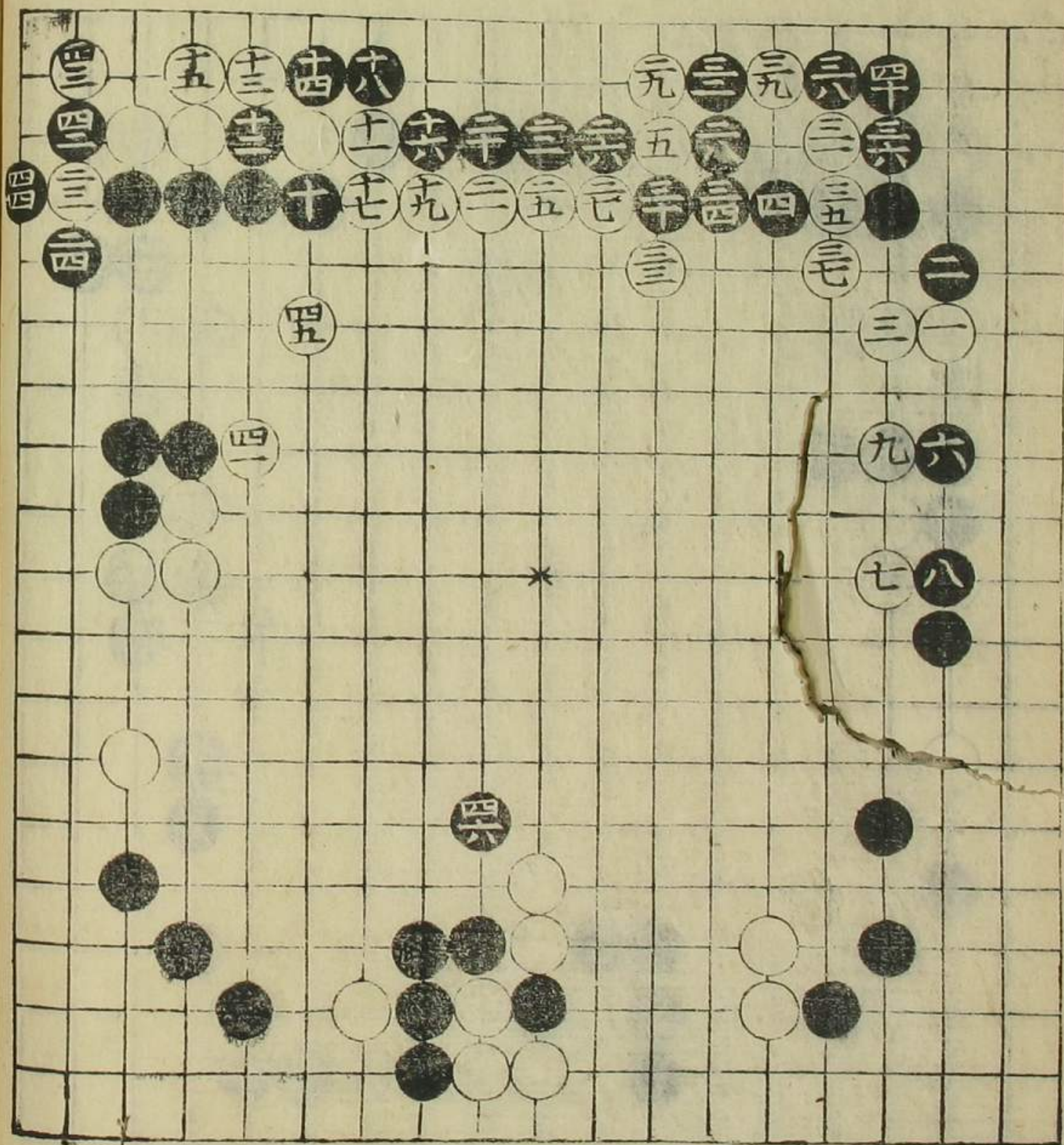
本星黒二六はあり
勢あり
此石互大よ右



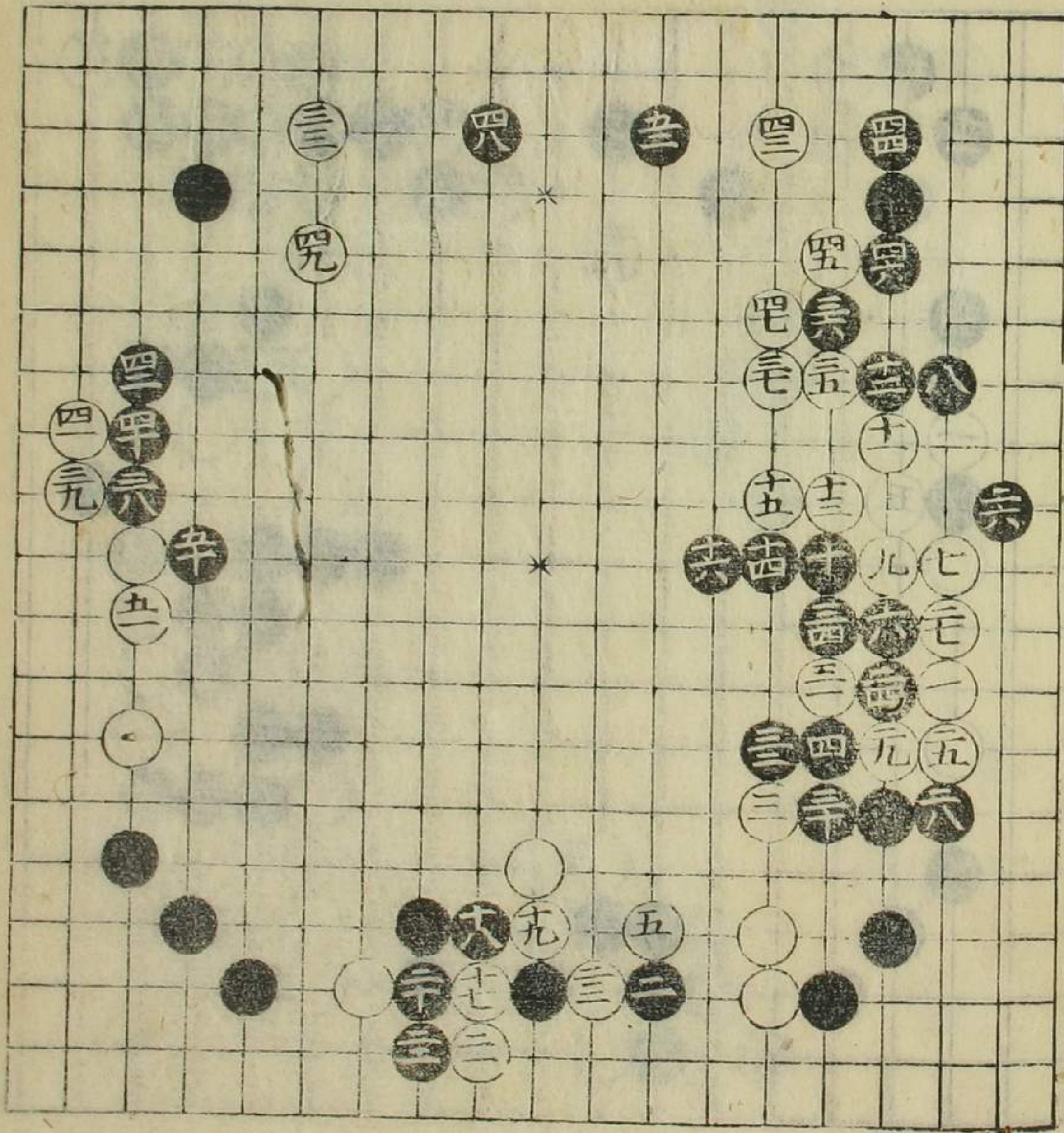
前星黒三六比より
移る
黒如新白六く打せ
中へ出打るとは
上紀之考へ及ぶ



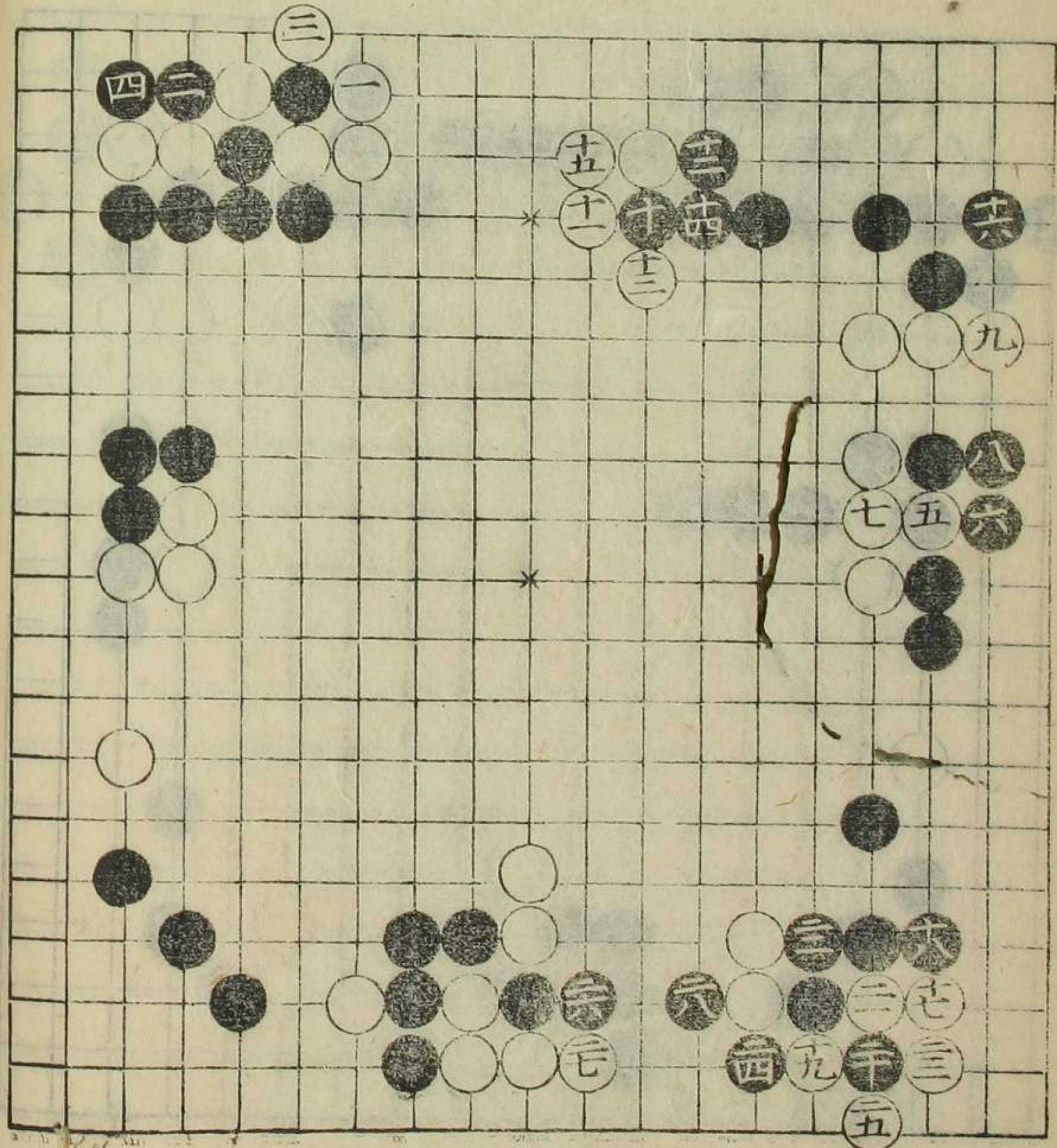
前星白九比より
移る
如先ありてと宜し
去かゝりし白比位
依前打すべし



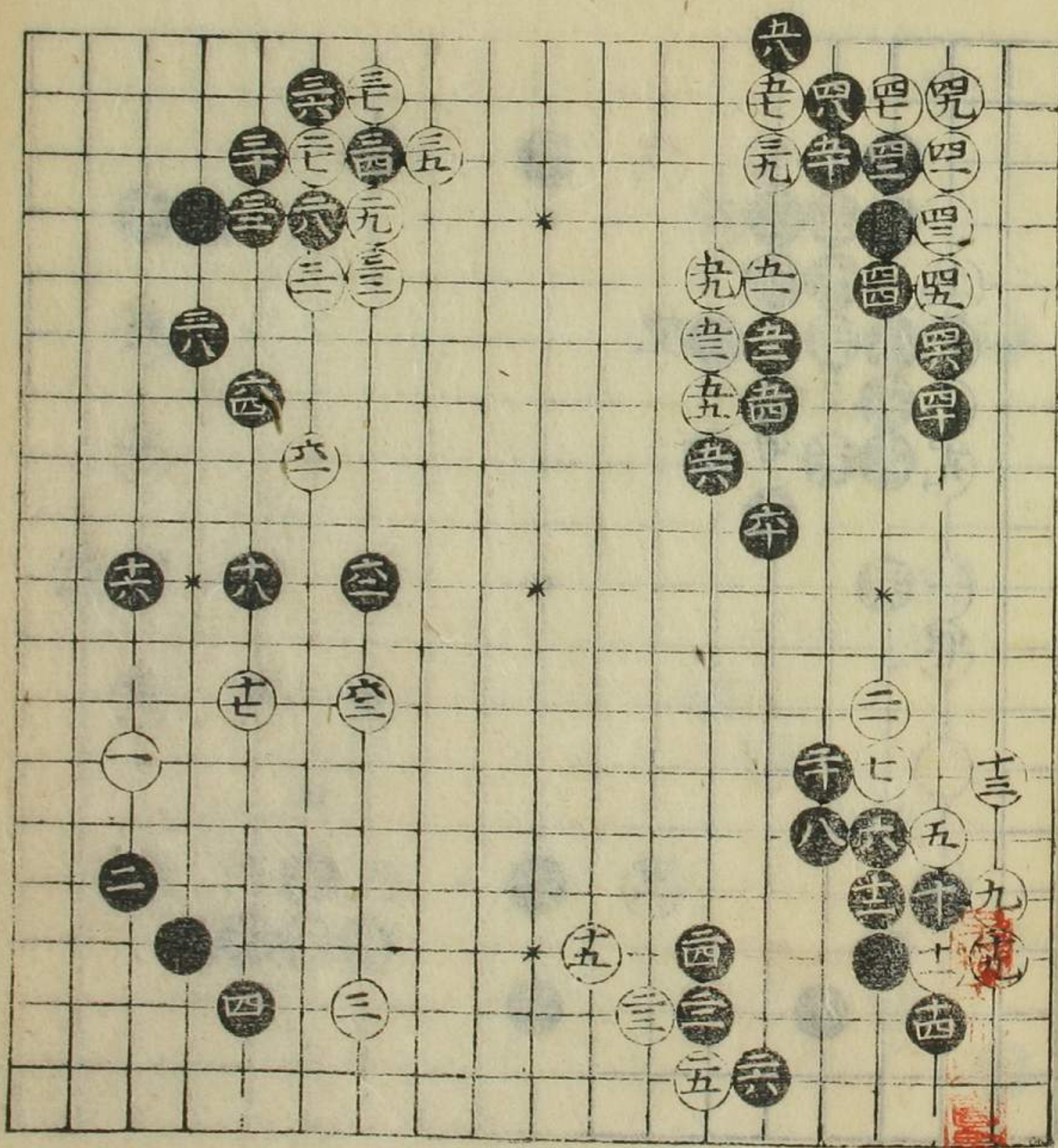
本堂自三比より
勢



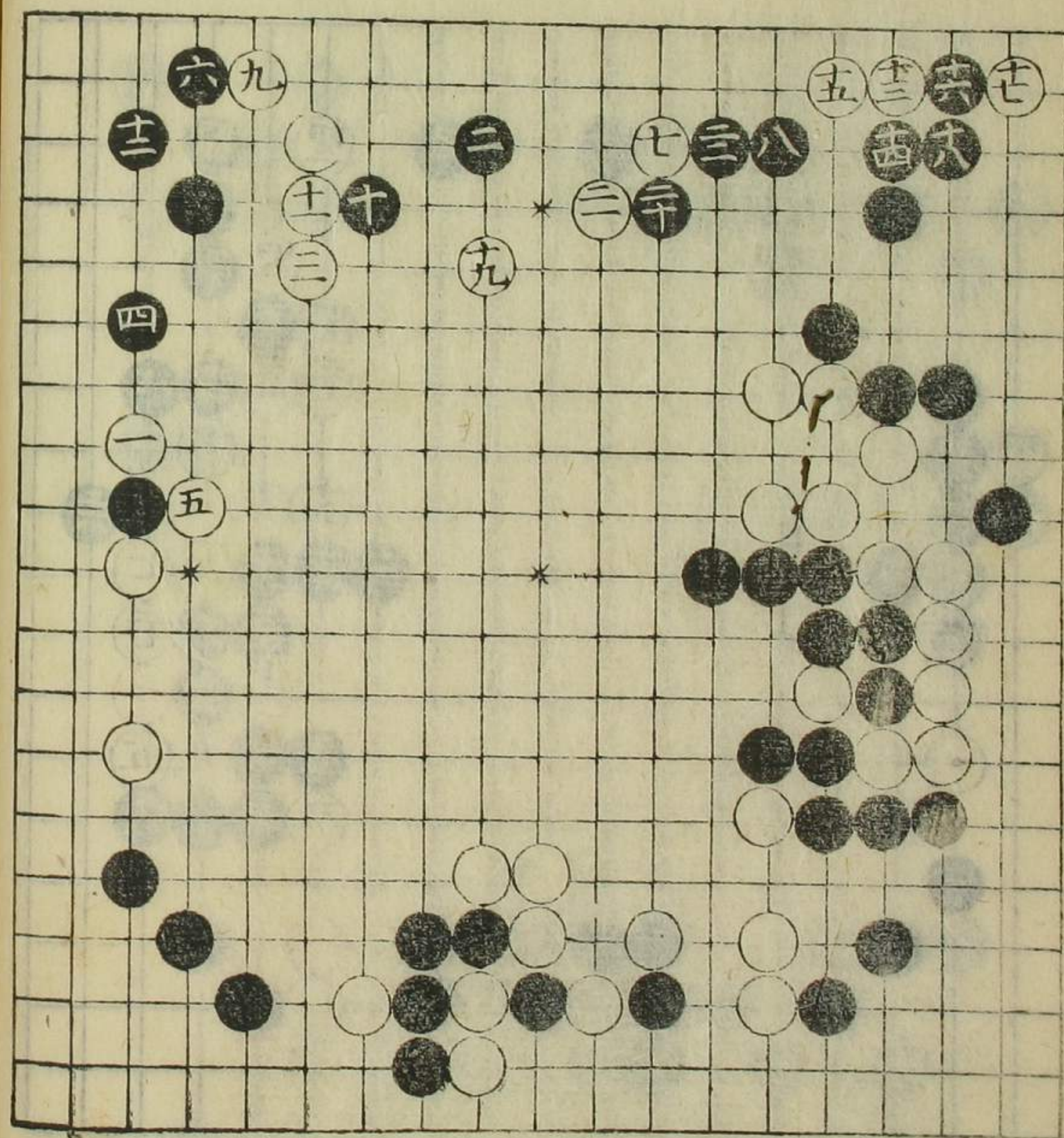
本堂より五番目は白
十五のよりあり勢
めを振替うてよ



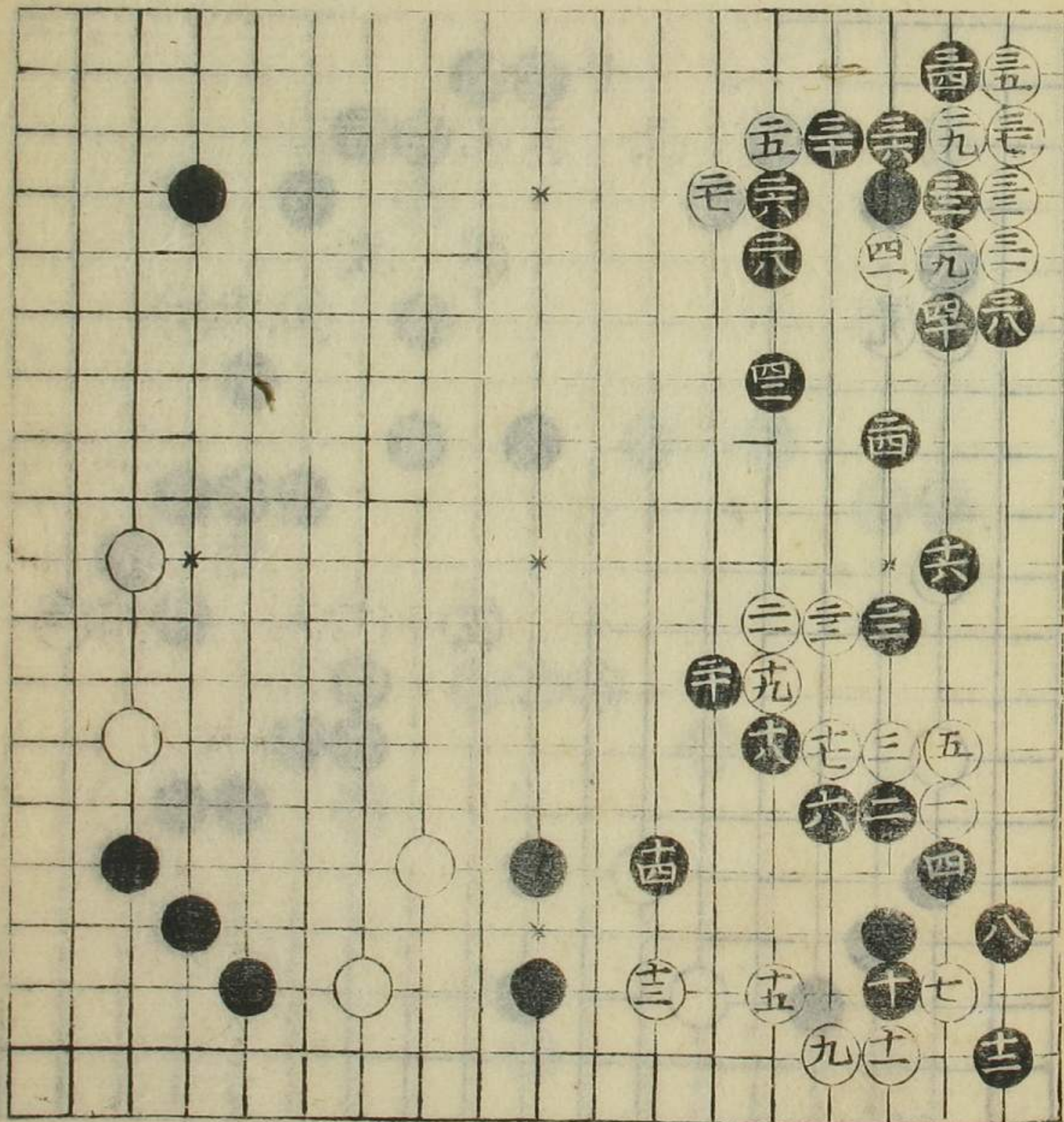
六四者少しを白掛り
有るは筋軍しぬ
不るは筋軍しぬ
と云



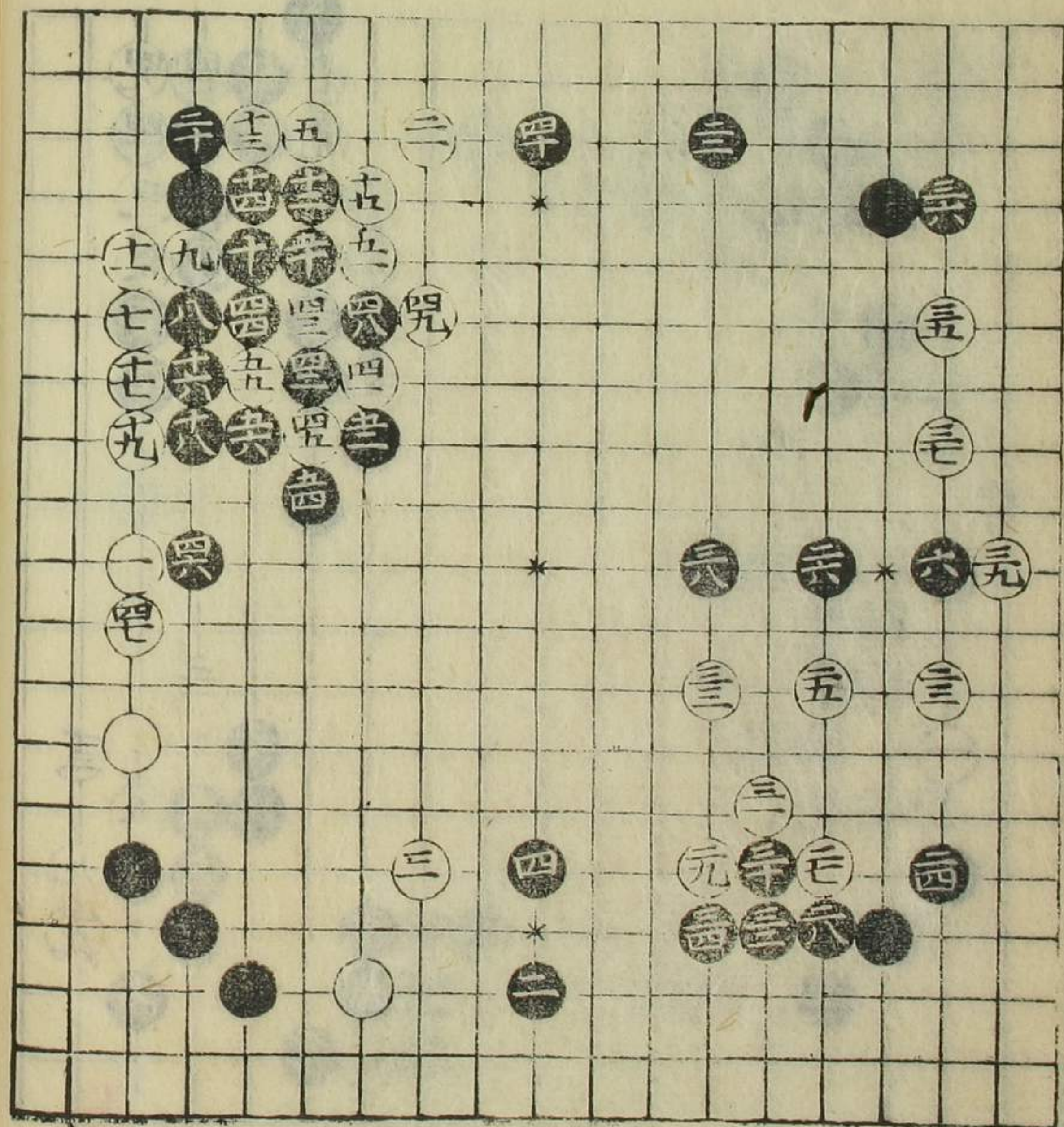
花屋白三九の
勢



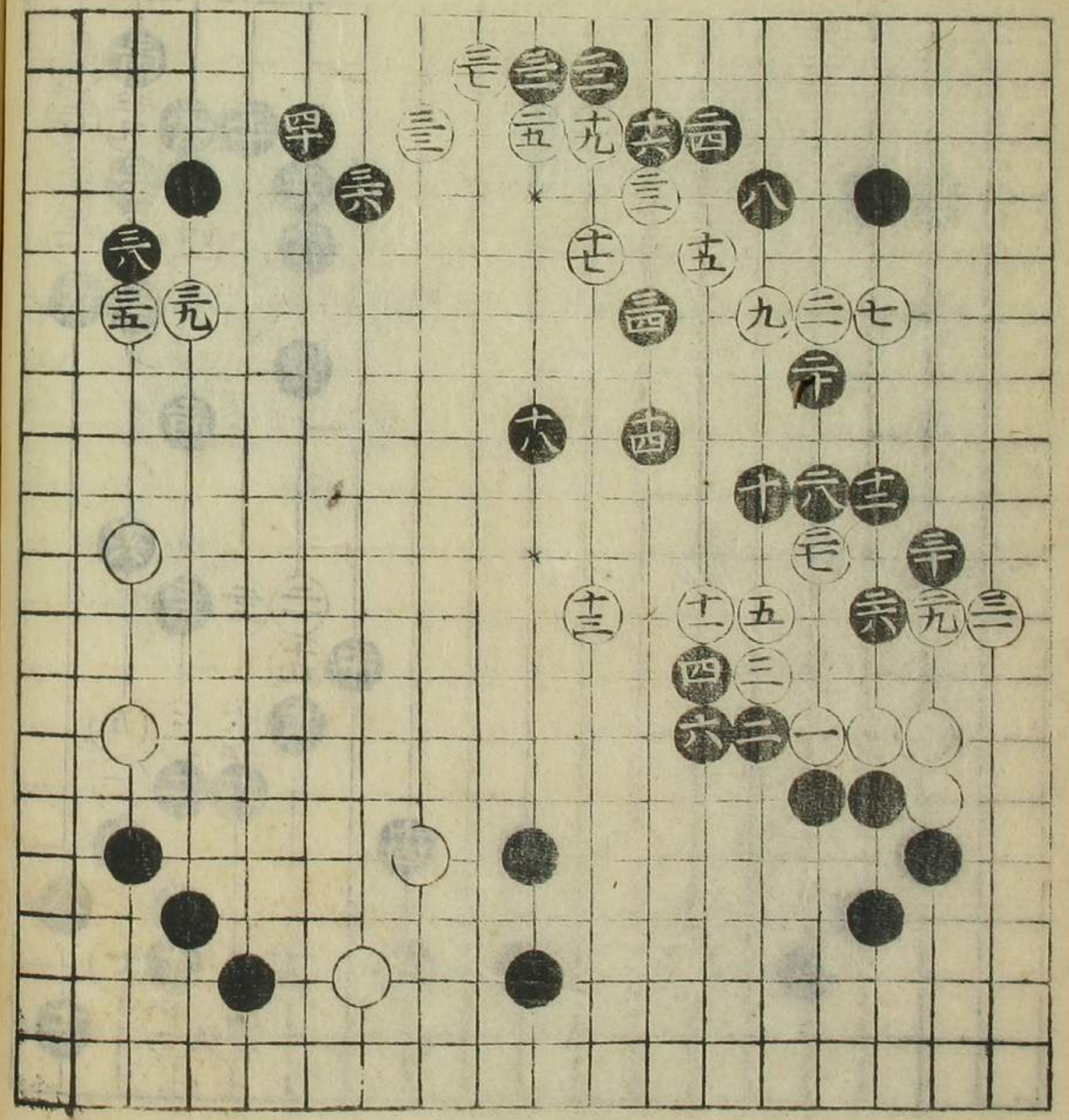
花堂白五の
移り
四十の
とをハ悪



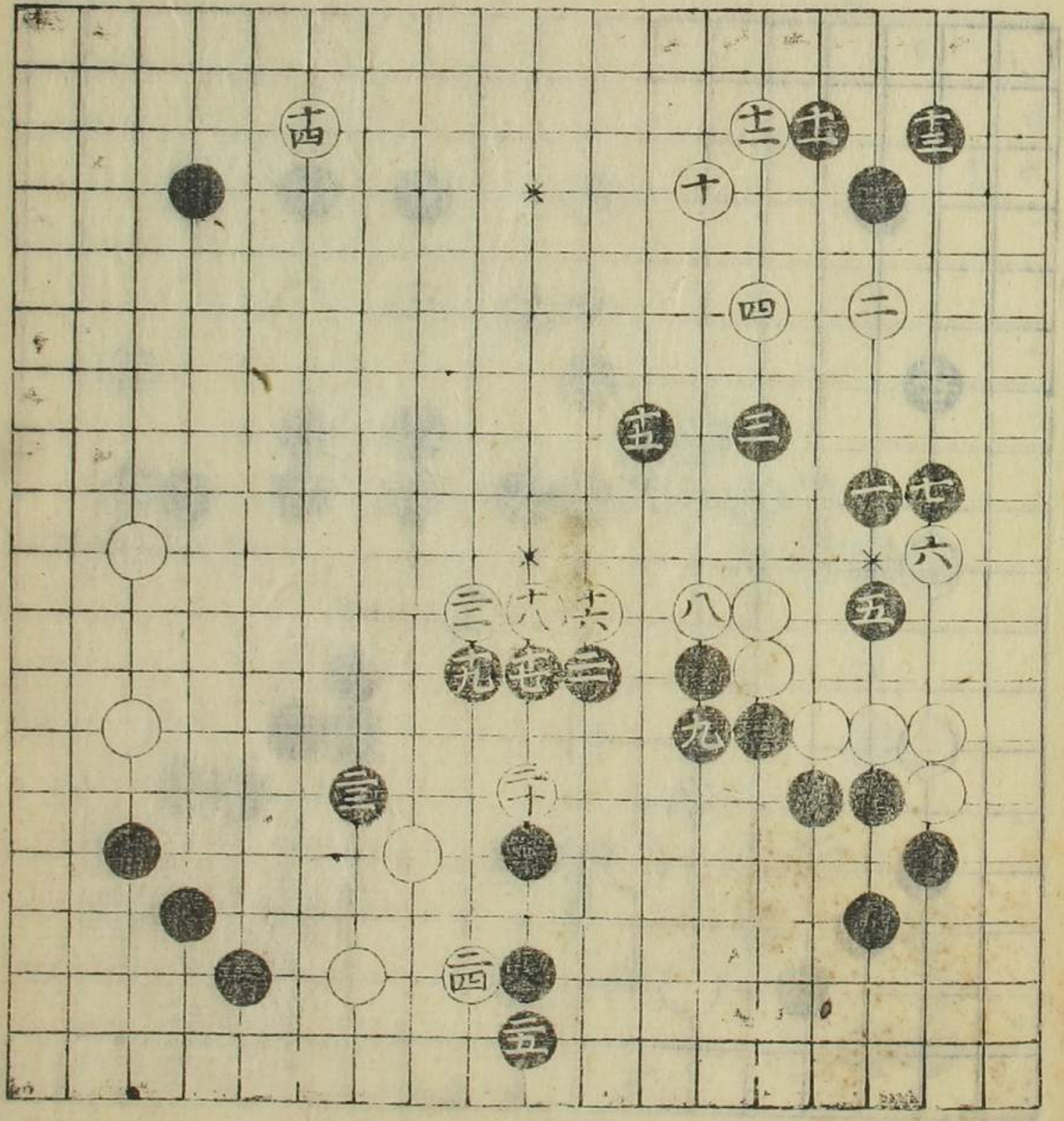
花堂白五の
移り
四二黒の
面か
あ
五
知



前星白七はあり
 移り
 如き方の上に出てお
 り後にも有てあり
 恒なり



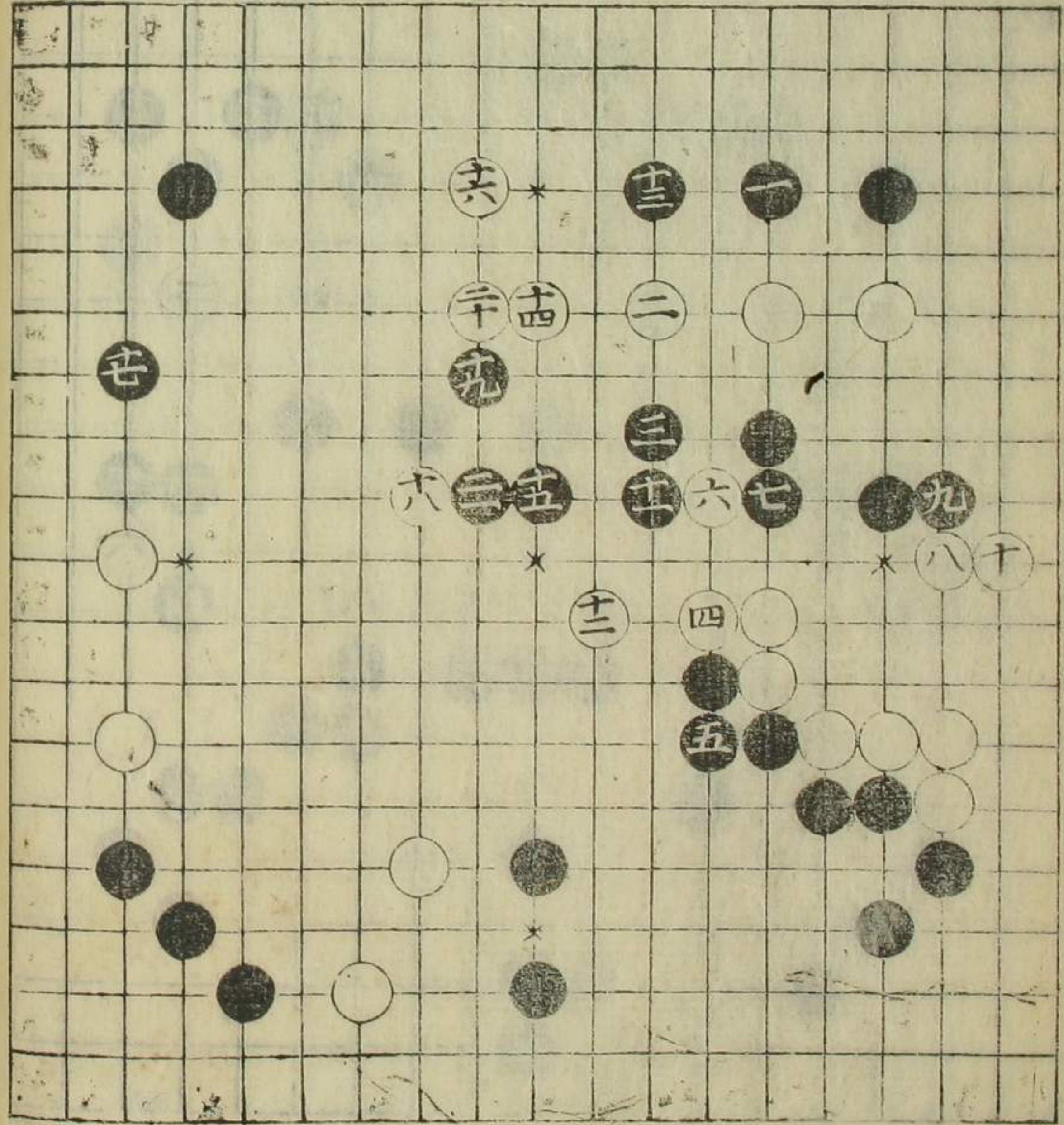
前星黒六はあり
 移り
 此石立中へ飛打をき
 かりと移るなりお
 よれ



四目置之部

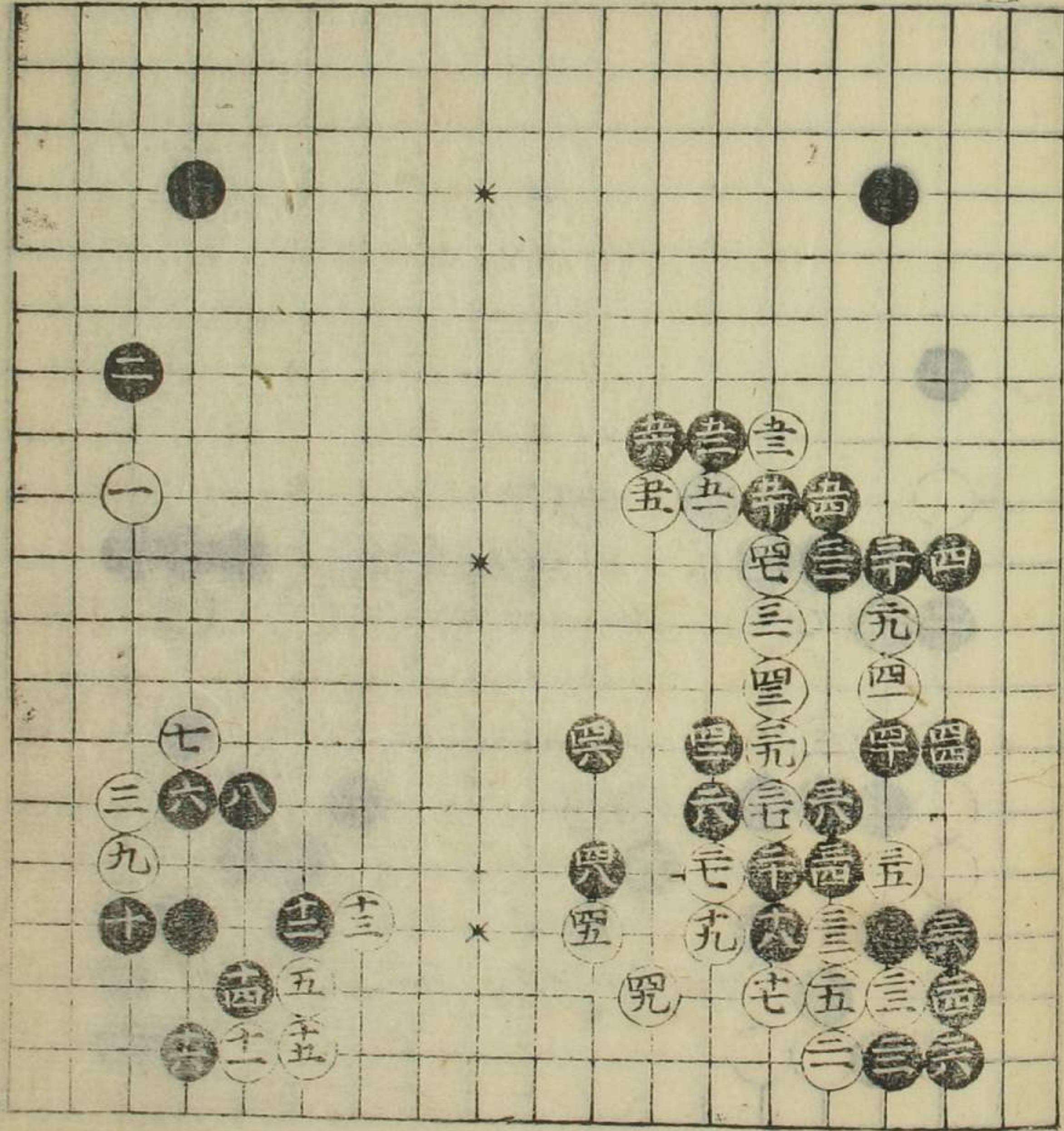
四十三

前星黒五以下より
 勢
 如是一と新中へ飛打ハ
 少く治癒し心は安
 二と左友のけ落小
 下新の候時其也
 三と右友の

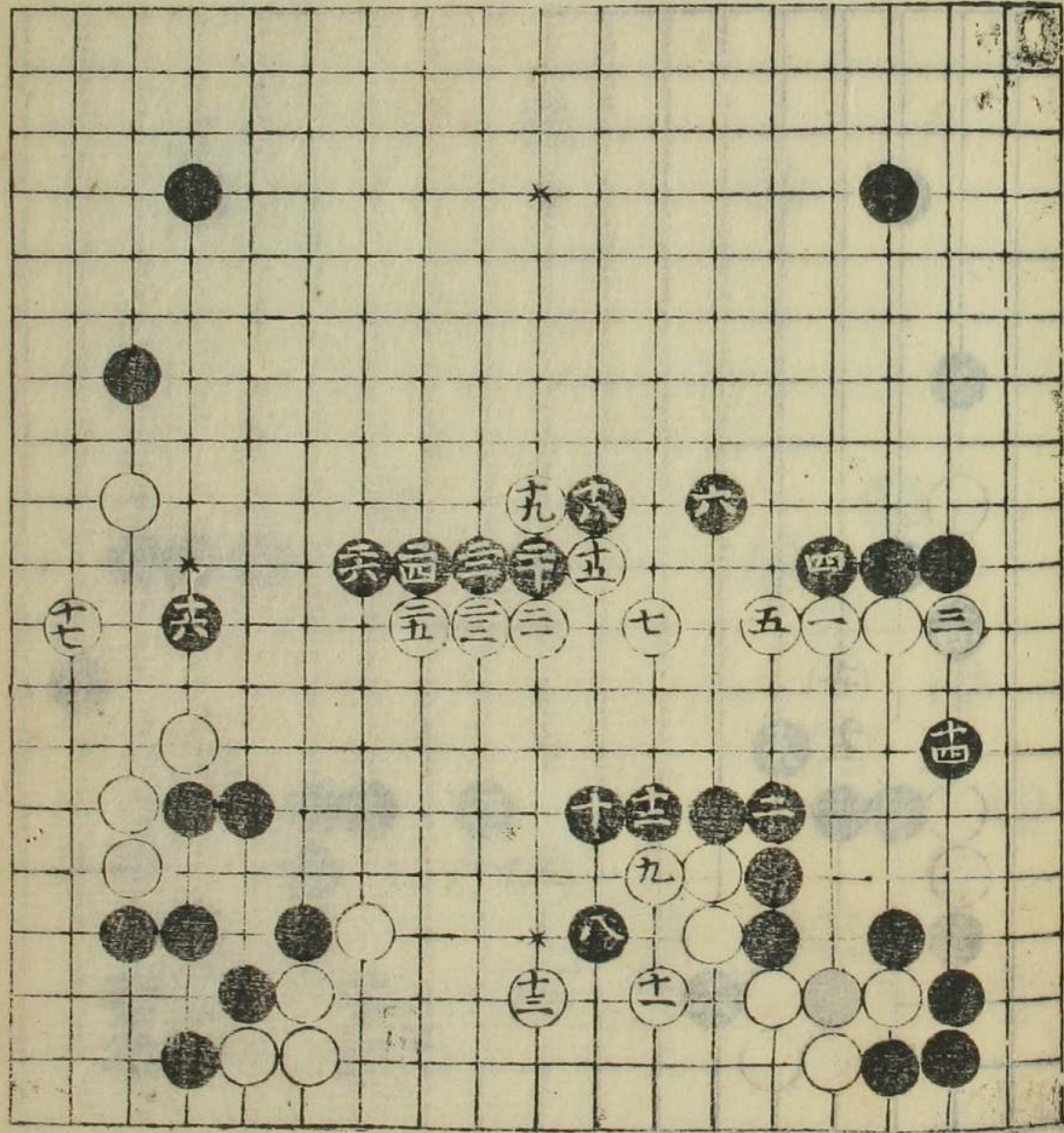


白三あり、決りた
 如新ありて、一向打
 へてやうなり

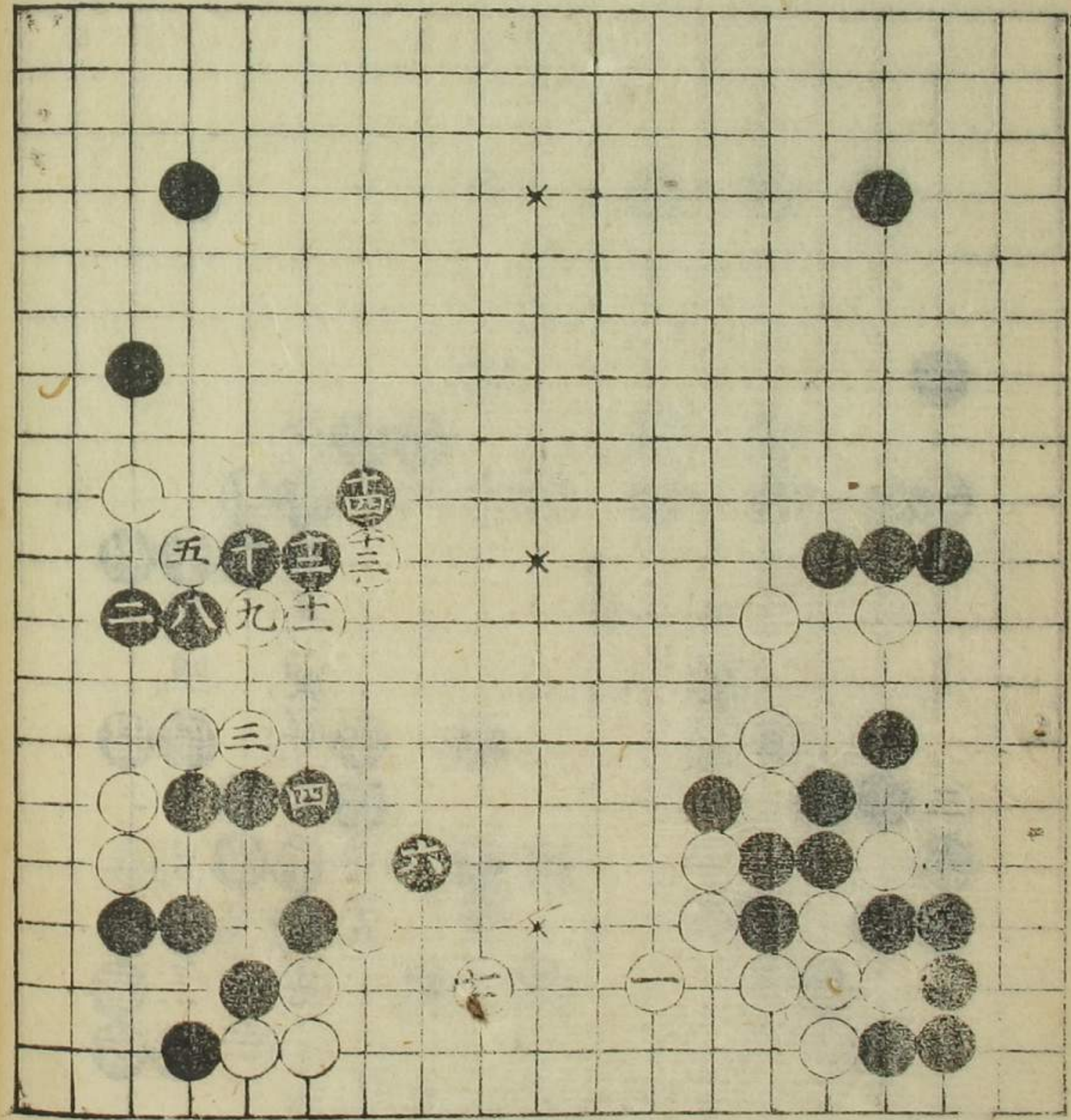
四目置之部



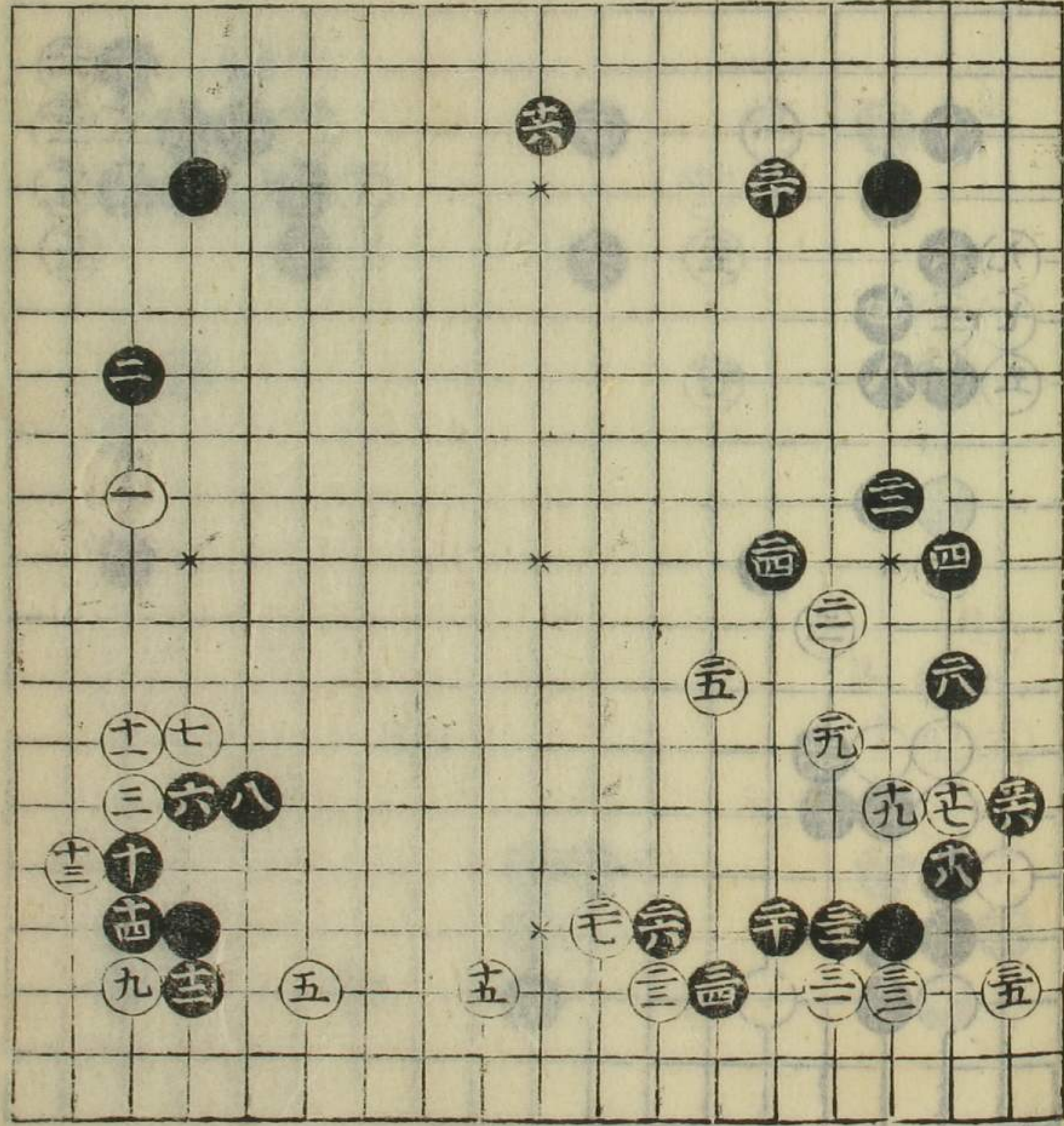
本星白三石より
 移る
 中此白をせらるものにお
 座十とめを動かさぬ
 ありて六一筋ありて白
 五一黒大石をせん
 歩一



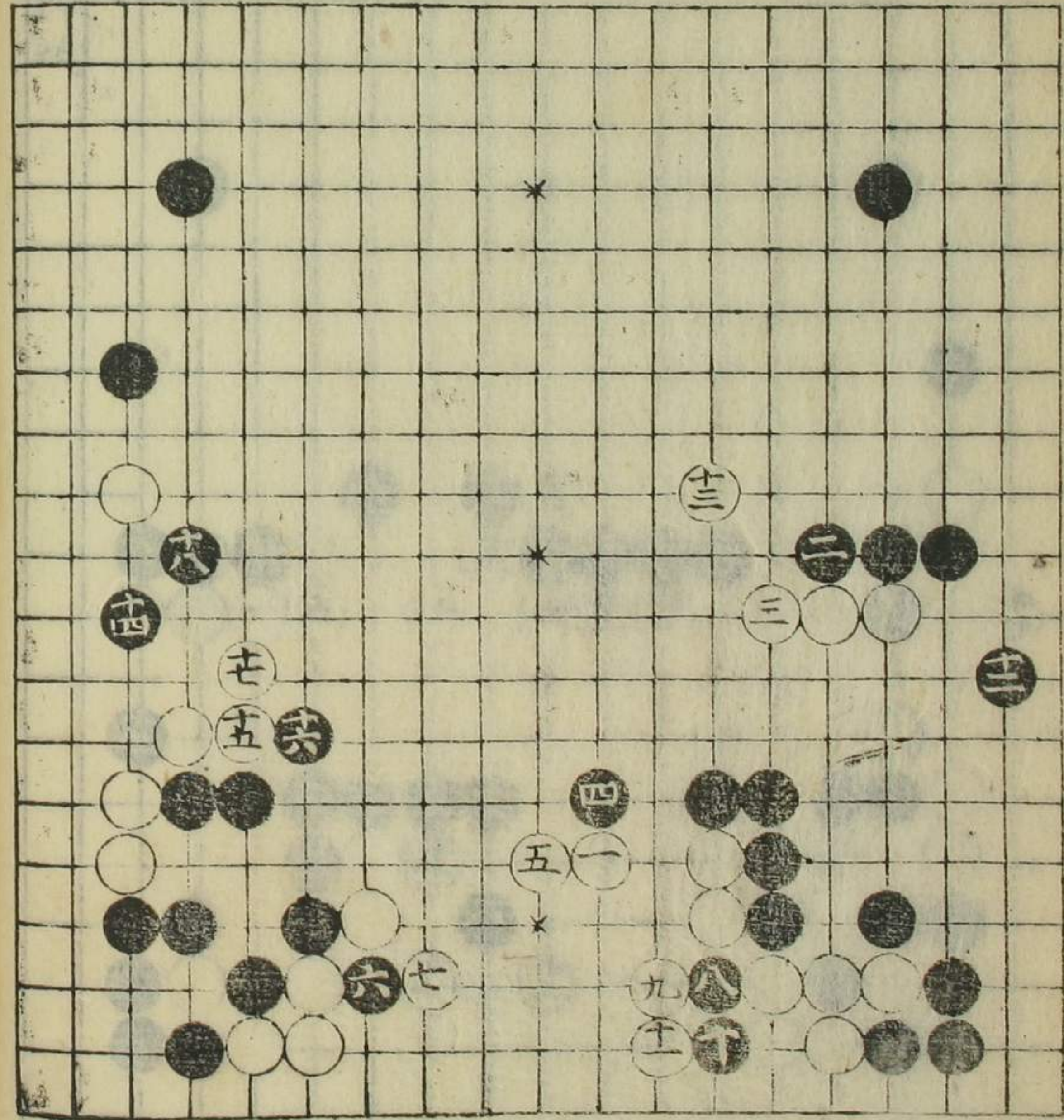
本星白四石より
 移る
 此形ありて黒は
 二の処折込て黒大
 歩一



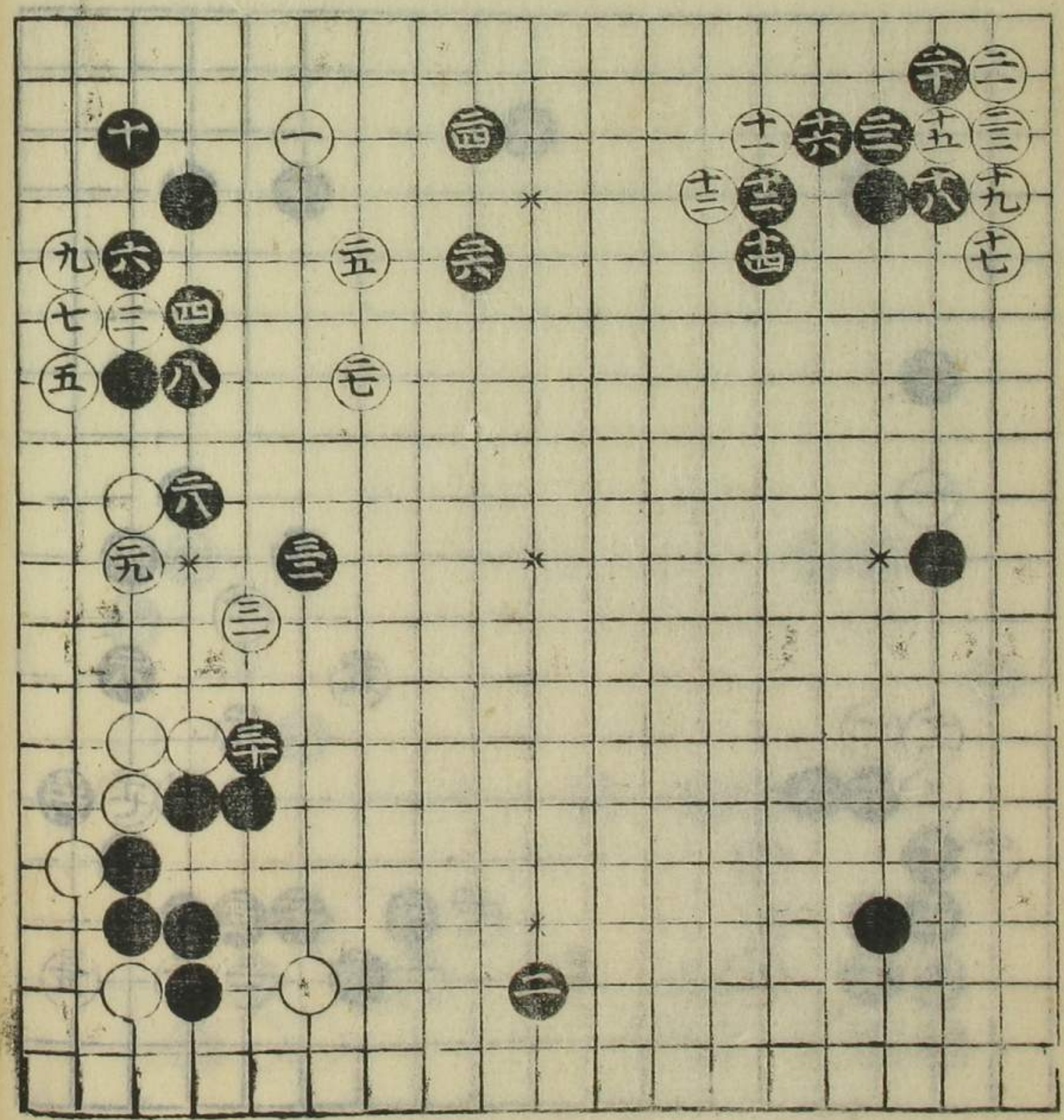
一筋ふしとつぎをくた
位しとて去



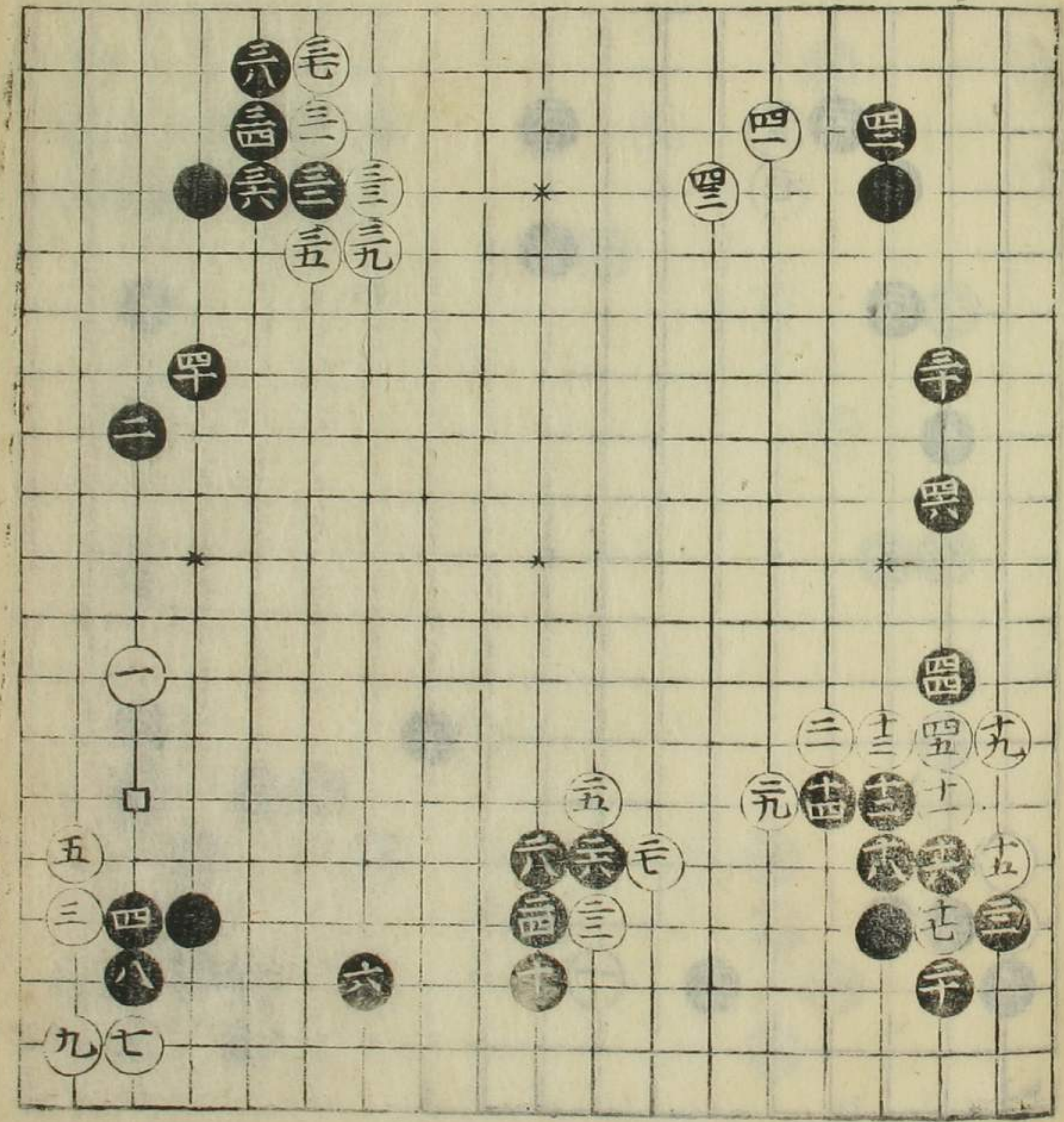
前圖白三石を
勢



若星白十五れより
 移り
 黒三十のよたよ者三二と
 うせ三二と折れ後
 面白考ふるべきと
 あり

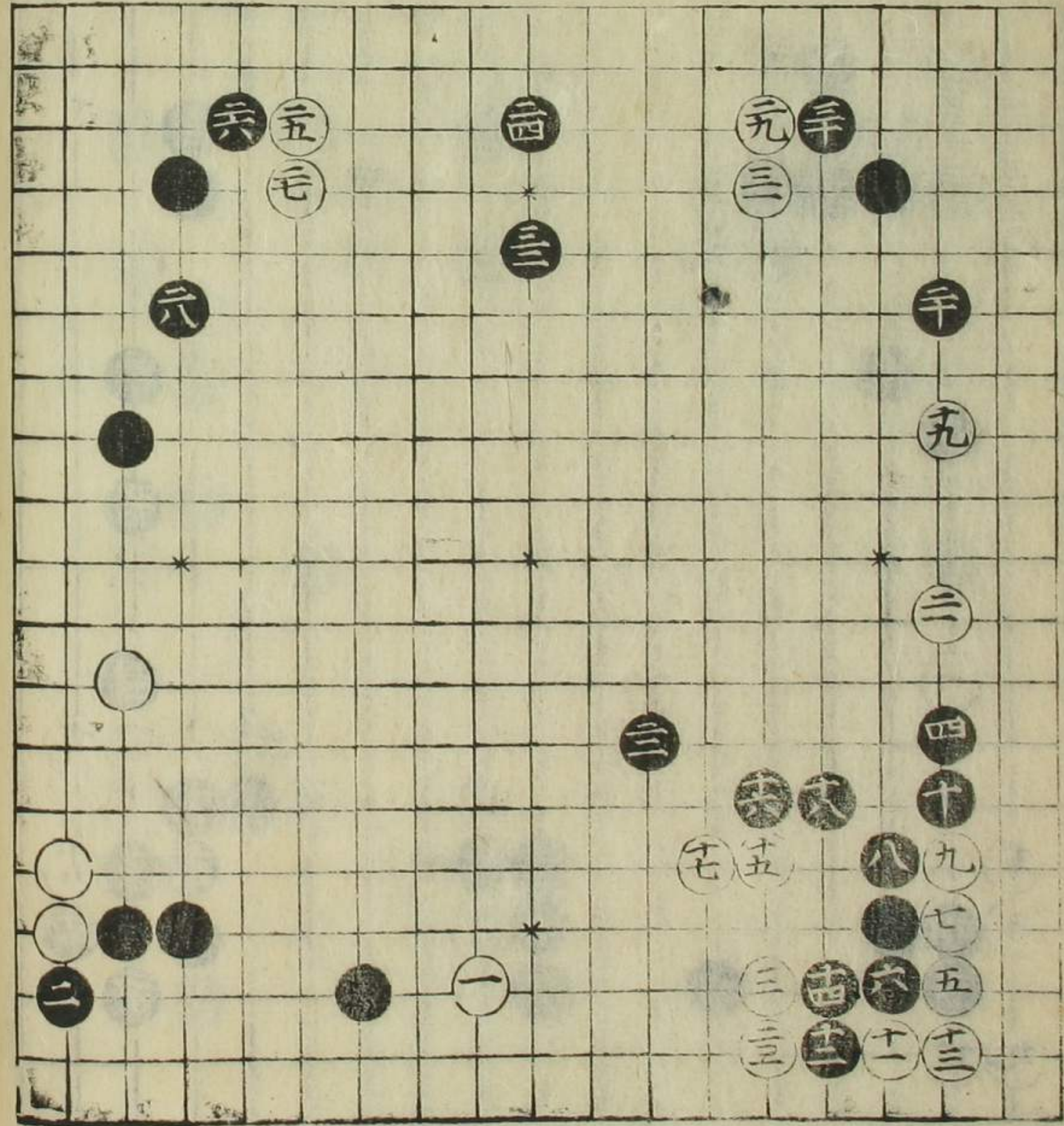


白七れより移れよ
 能ありされり八と
 うして八部て悪
 白八の亦へちめて折ハ
 黒の方少一重一
 也去黒六のよ少く
 □下折後よめを六
 と折ハ者移り次は凡



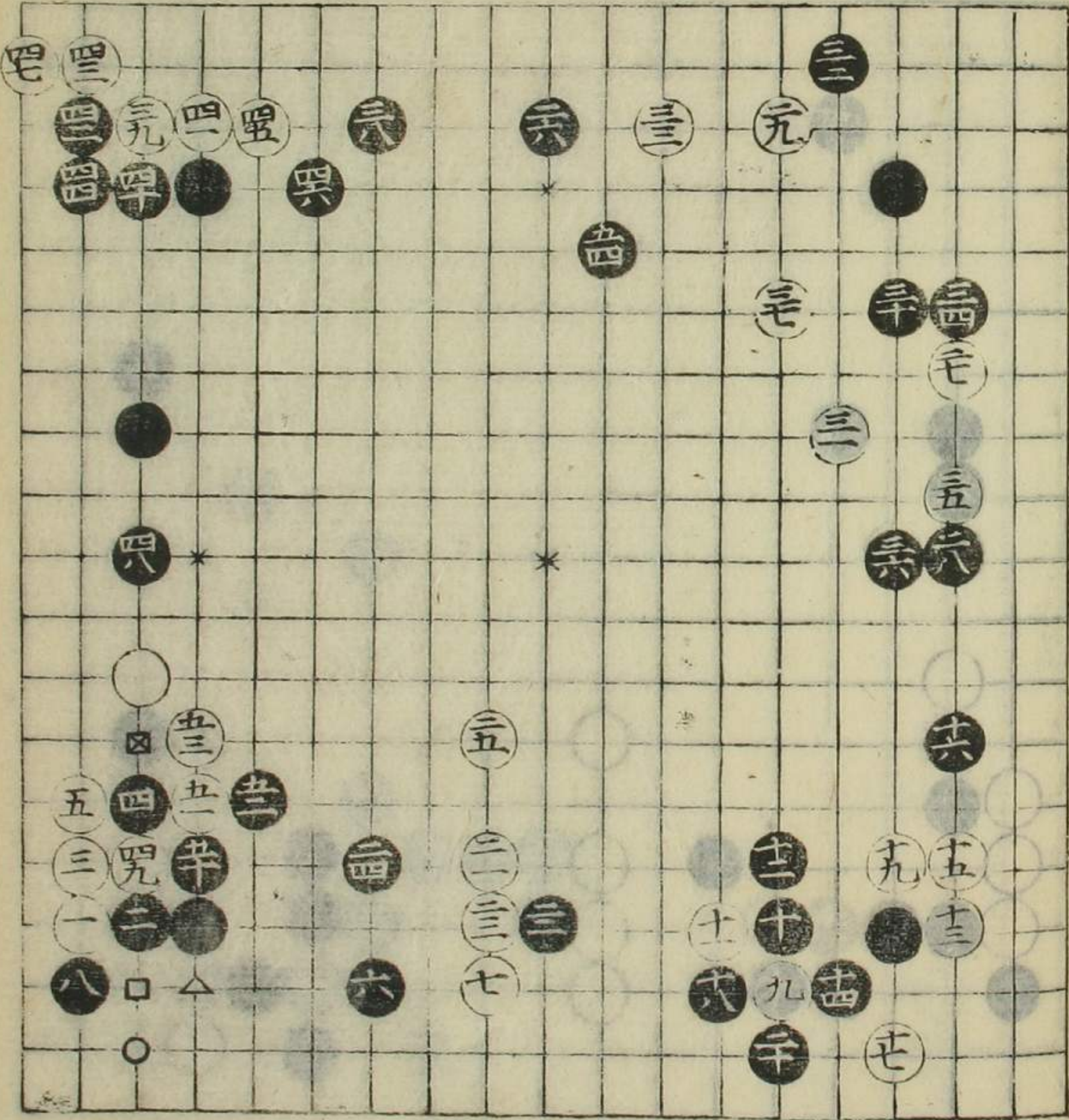
四目置之部

若墨白七はより
 勢
 如色なりくも各三
 然も左右に白打
 五三は之前より
 自也より之より

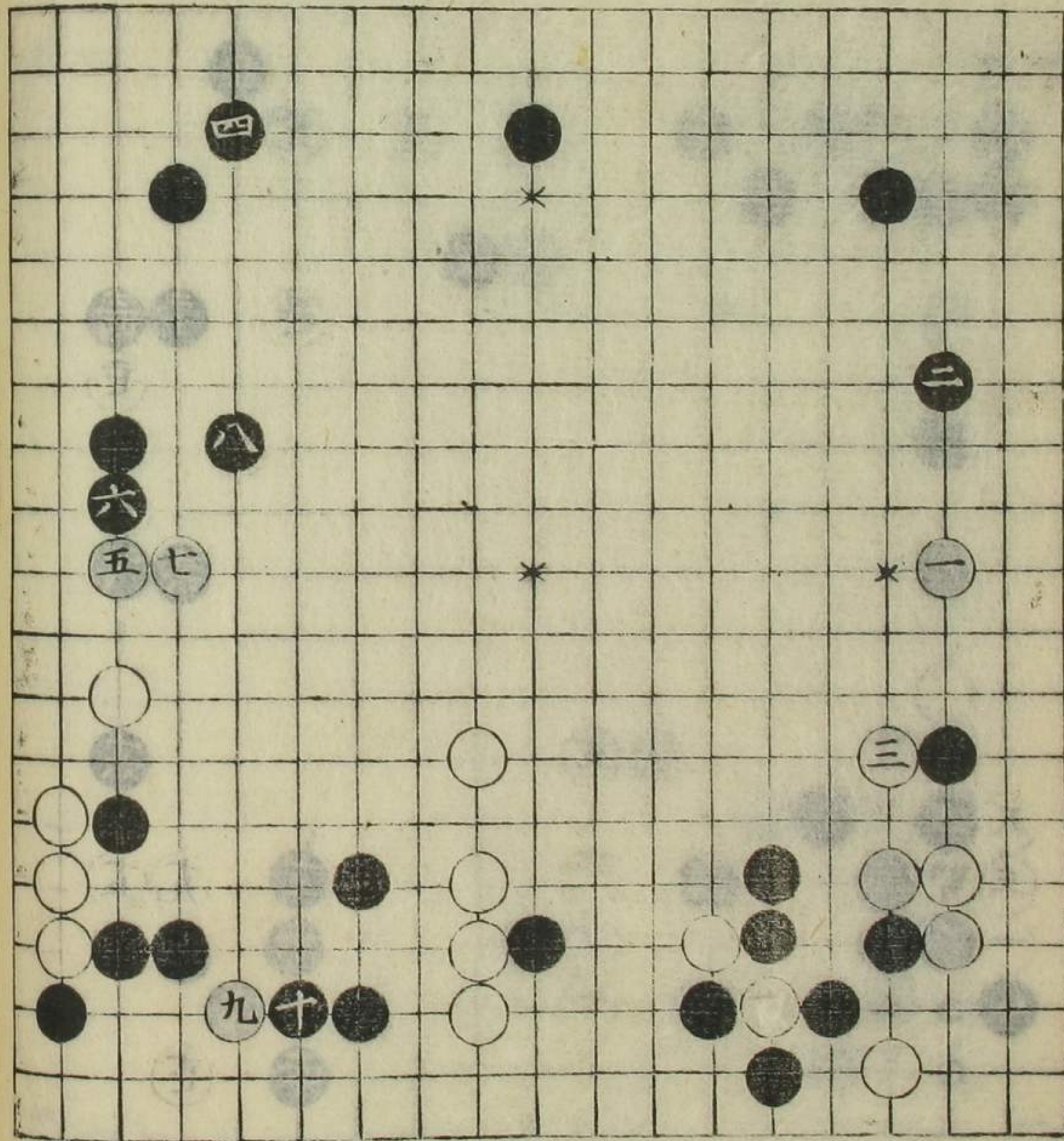


本墨黒六はより
 勢

四の世打並八世
 自五はより口本打
 黒△入押打白○入
 へ下の時黒△入打赤
 黒四のよにて赤△の赤
 押打くも若山くも筋
 六と赤△の赤打せ並
 勢より次より

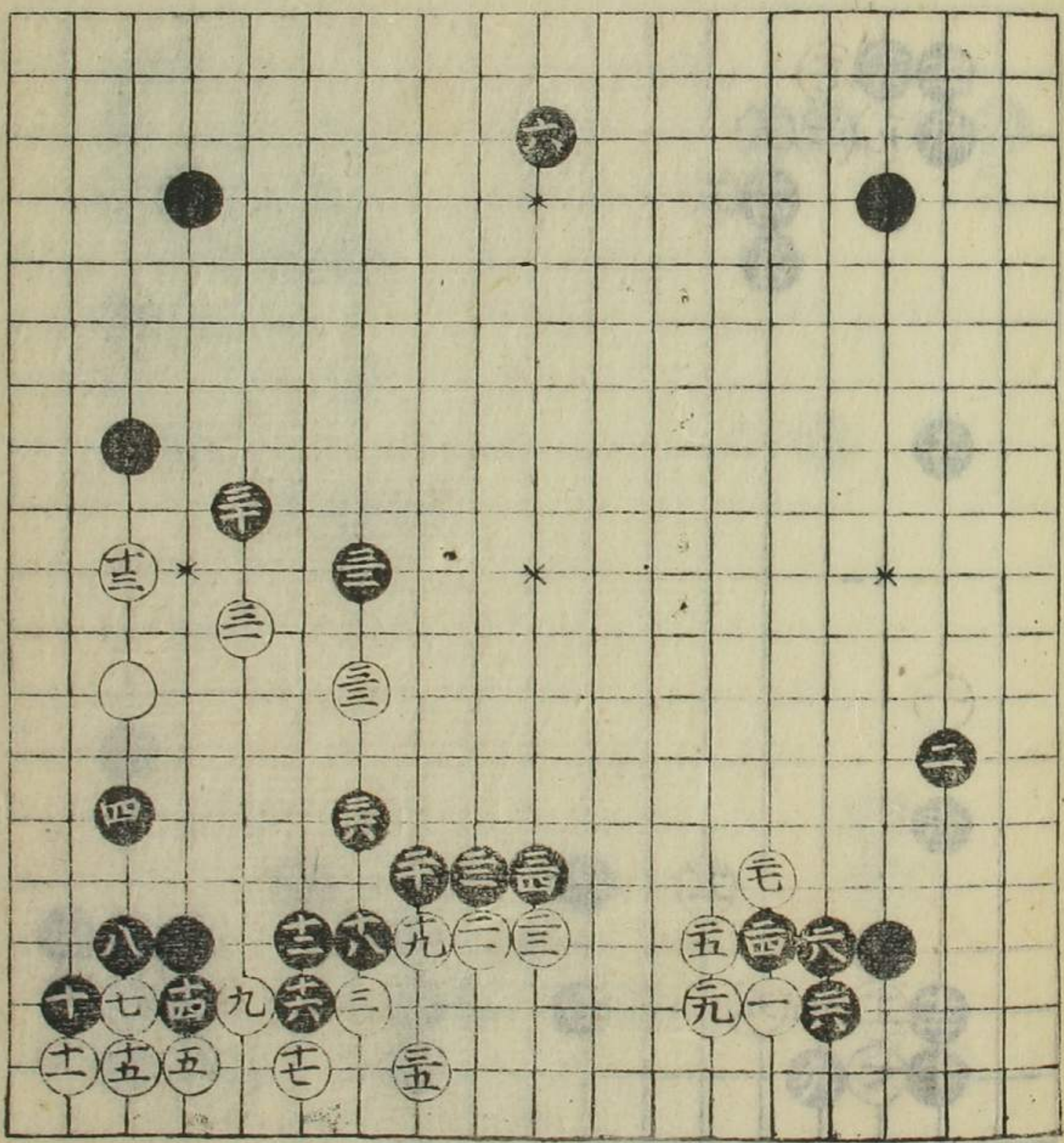


白二七はより
勢



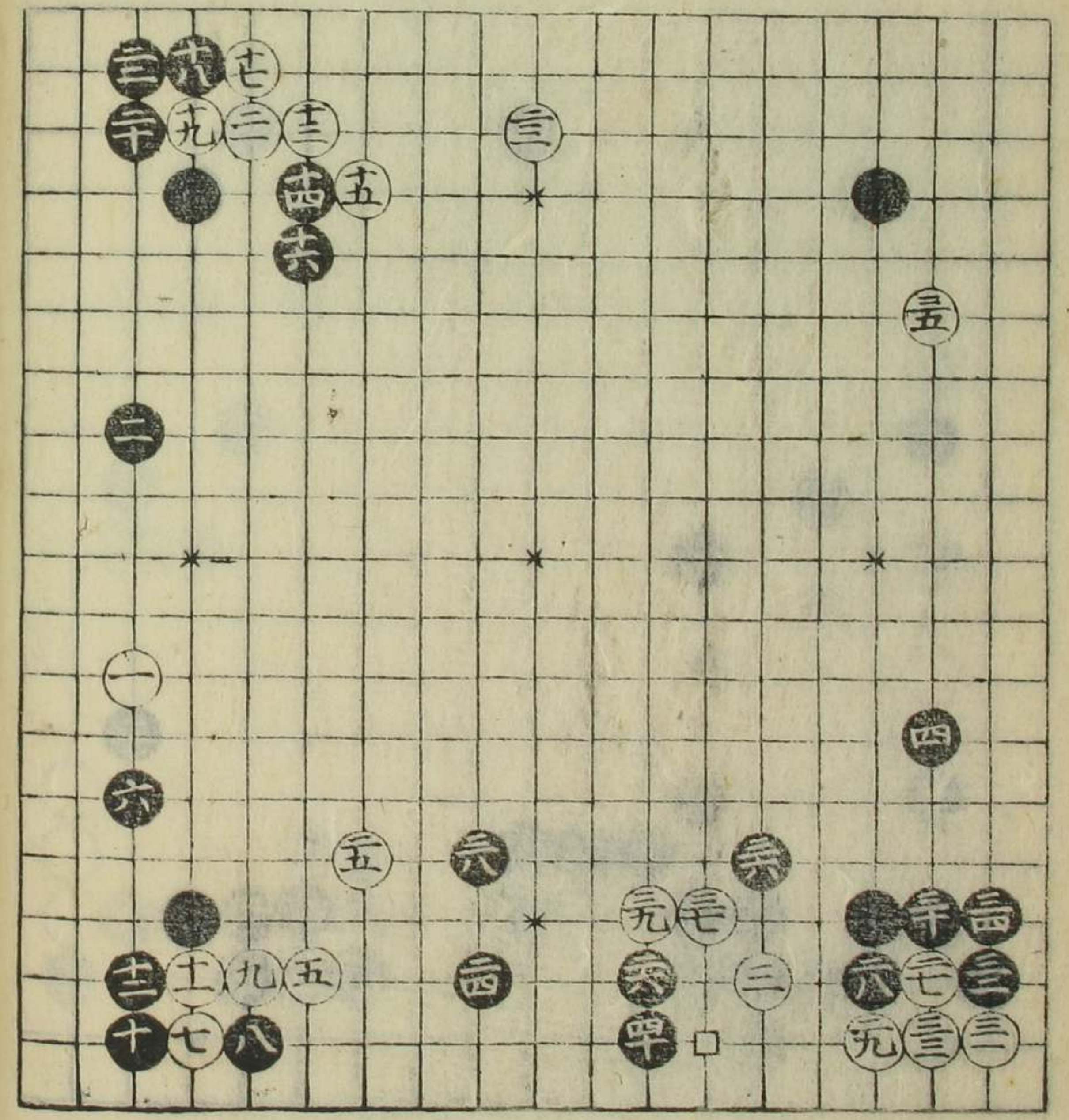
白三はより
勢

三十はより
めは黒より押し打
二ツ桂馬を引けておと
し置こも胸をたたく
へ

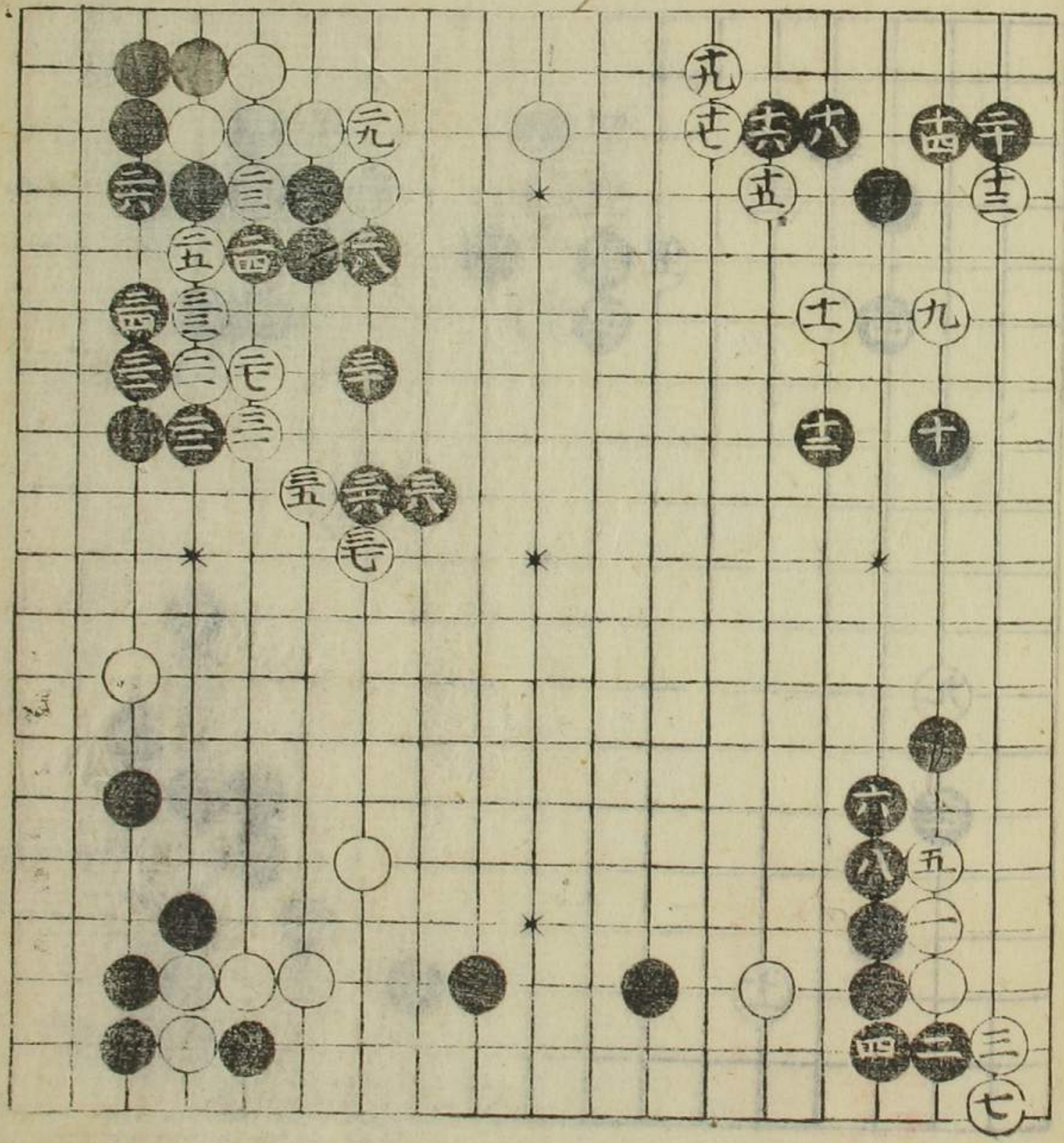


四目置之部

黒三六のふりかへりか
 ふりかへりか
 ありんけし黒四十九
 かりて目台口下六
 一



若くは白二十九は
 あり
 ありて二筋あり
 一白黒の方あり

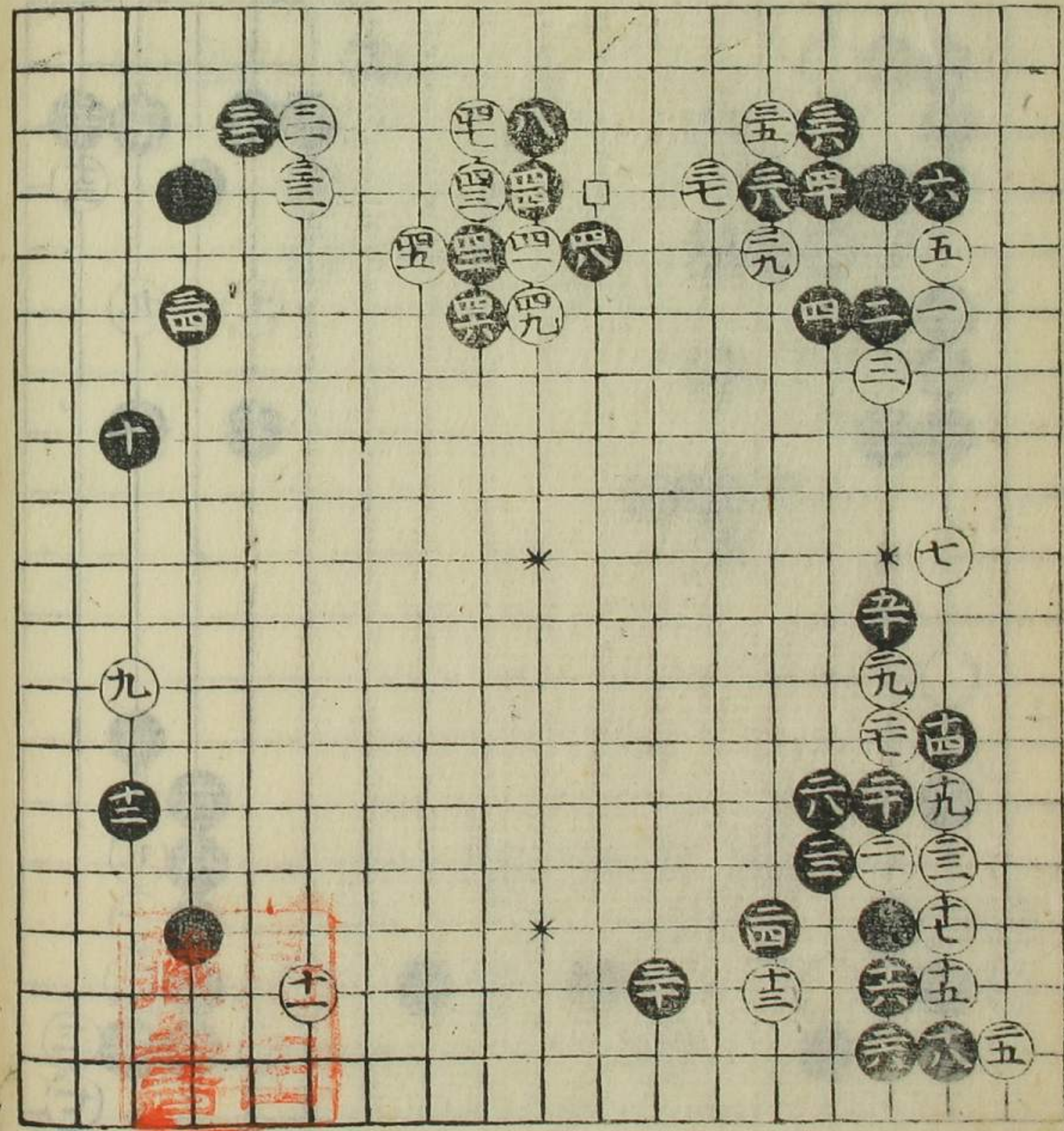


四目置之部

二一八

四十九

五十は子とて征あり
 左めを折る征れあ
 たりふれなき時を
 四二のふて口下尖
 あり



五十

